地質学雑誌　第116巻　第4号（通巻1375号）付録 [redacted] 平成22年4月15日発行（毎月1回15日発行）

# 日本地質学会 News

Vol.13 No.4 April 2010

5月10日は
地質の日

# 5月10日は
# 地質の日

## 見て！さわって！地球がわかる
## 5月10日を中心に全国でイベント開催

**「地質の日」を記念して、全国の博物館や大学、研究機関で多くの講演会、特別展、見学会などのイベントが開催されます。この機会に、みなさんの住んでいる大地のことを学んでみませんか？みなさんのご参加をお待ちしております。**

写真提供：中津川市鉱物博物館、横須賀市自然・人文博物館、産総研地質標本館

### 地質の日の由来

5月10日は、明治9年（1878）、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された日です。
また、明治11年（1878）のこの日は、地質の調査を扱う組織（内務省地理局地質課）が定められた日でもあります。

地質の日事業推進委員会は全国で行われる地質の日の行事をバックアップしています。
地質の日事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、（独）産総研地質調査総合センター、日本堆積学会、日本第四紀学会、日本鉱物科学会、日本科学未来館、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、（社）全国地質調査業協会連合会、(NPO) 地質情報整備・活用機構、（社）東京地学協会、（独）国立科学博物館、全国科学博物館協議会、日本ジオパークネットワーク　（順不同；2010年1月現在）

ここに用いた地質図は100万分の1日本地質図第3版と（財）日本水路協会海洋情報研究センターが作成した標高データJTOPO30を使用して作成しました。

【地質の日事業推進委員会事務局】
独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
TEL: 029-861-9122、FAX: 029-861-3672

各地域のイベント情報はこちらから
**http://www.gsj.jp/geologyday/**

# 日本地質学会*News*

Vol.13 No.4 April 2010

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
**編集委員長　坂口有人**
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

## *Contents*

**日本地質学会第117年総会/一般社団法人日本地質学会第２回総会** ……2

報告　理事会推薦監事立候補者について ……2

富山大会：シンポ，トピック/定番セッションが決まりました ……3

案内 ……4
三朝国際インターンプログラム2010/米国地質学会国際大会

各賞・研究助成 ……4
第７回（平成22年度）日本学術振興会賞受賞候補者推薦募集/2010年度「信州フィールド科学賞」募集/2011～2012年開催藤原セミナー募集

公募 ……5
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教授公募/IODP掘削航海乗船研究者募集/東京大学地震研究所教員公募/公募結果

博物館だより ……6
大阪市立自然史博物館：特別展「大恐竜展」

紹介 ……7
写真で見る宮崎県の地学ガイド　足立富男著（高谷精二）/ホルツ博士の最新恐竜事典　トーマス・R・ホルツJr. 著・小畠郁夫監訳（岡田博有）

TOPIC ……9
地質調査　日韓に信頼培う：日本統治下の朝鮮半島　海を渡った父の研究の足跡（立岩　寧）/高知県天然記念物に指定された震源断層（鈴木堯士）

**地質の日イベント紹介** ……11
本部イベント企画：写真家白尾元理講演会「地球史46億年を撮る」ほか/北海道支部：北海道大学総合博物館企画展示「わが街の文化遺産　札幌軟石」/関東支部：第２回地質技術伝承講習会：地質技師長が語る地質工学余話/近畿支部：第27回地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？」/西日本支部：身近に知る「くまもとの大地」

委員会だより ……12
継続教育委員会：2009年度「土質・地質技術者生涯学習協議会」の報告

地学教育のページ ……13
グランプリ地球にわくわく“第２回日本地学オリンピック大会”開催

支部コーナー ……14
近畿・四国・西日本支部 「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」（三支部合同例会）開催のお知らせ/関東支部　報告：ジオパークをめざして！―秩父地域の観察会と講演会，大盛況に終える―

訂正 ……15

院生コーナー ……16
IODP教育プログラム「ちきゅう」乗船スクール2010参加報告（松山健志）

**2010年度の会費払込について** ……18

新事務局員ご紹介 ……18

CALENDAR ……19

「地学は何ができるか」の編集を終えて（地学読本刊行小委員会）/「地学は何ができるか」会員割引販売のご案内 ……20

学会記事 ……22
（任）日本地質学会2009年度第９回理事会議事録
（任）日本地質学会2009年度第10回理事会議事録

一般社団法人日本地質学会 ……24
（一社）日本地質学会2009年度第９回執行理事会議事録
（一社）日本地質学会2009年度第10回執行理事会議事録

入会申込書 ……26

巻末　会費口座振替依頼書

**表紙紹介**

### シュードタキライトを含む震源断層

写真：**坂口有人**（海洋研究開発機構研究員）
解説：**鈴木堯士**（高知大学名誉教授）

「高知県天然記念物」にこの度指定された四万十帯における付加体中の震源断層の露頭写真である．場所は高知県高岡郡四万十町（旧窪川町）小鶴津の海岸で，「興津断層」と名付けられた．この断層の幅は10数mで（中央にハンマーが見える），延長は約50mまで確認され，約5000万年前の南海地震の震源域の跡である．

その証拠として一つは黒色のシュードタキライトの脈や薄層が無数に見出されることである．この興津断層のシュードタキライトは，沈み込み帯における世界で最初の発見である．シュードタキライトは地震が高速で動く時の摩擦熱で岩石が高温化・溶融・ガラス化したものであり，地震の化石と呼ばれ，震源断層の典型的な証拠である．もう一つの証拠は写真で赤茶色に見えるアンケライトの存在である．地震でできた断層の裂け目を接着させる役割をアンケライトが果たし，岩盤の強度を再び強固にした結果，次の地震の準備ができたと考えられる（本号には，より詳しい説明が掲載されている．本誌p.10参照.）．

**事務局営業カレンダー**　お休み　＊印は振替休日です

4月/April

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30＊ | |

5月/May

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23/30 | 24/31 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

以下の次第で任意団体および一般社団法人日本地質学会の総会を開催いたします．

---

**開催通知**

## 日本地質学会<br>第117年総会開催について

2010年３月13日
日本地質学会　会長　宮下　純夫

日本地質学会第117年総会を次の次第により開催いたします．

**2010年５月23日（日）18：00〜18：40**
**会場　幕張メッセ　国際会議場　304会議室**

１．開会
２．議長選出
３．議案
　１号議案　2009年度事業経過報告
　２号議案　2009年度決算報告と資産の処分
　３号議案　任意団体の解散
４．閉会

---

１．会則第29条により，本総会は役員ならびに代議員による総会となります．ただし，会則第30条５項により，正会員は総会に出席し，意見を述べることができます．
２．役員，代議員には別途，総会開催通知ならびに「総会の定足数等に関する細則」にもとづく議決権行使書，委任状などを期日までにお送りいたします．ご都合で欠席される方は，議決権行使書または委任状を提出してください．

**開催通知**

## 一般社団法人日本地質学会<br>第２回総会開催について

2010年３月13日
日本地質学会　会長　宮下　純夫

一般社団法人日本地質学会第２回総会を次の次第により開催いたします．

**2010年５月23日（日）18：45〜19：45**
**会場　幕張メッセ　国際会議場　304会議室**

１．開会
２．議長選出
３．議案
＜2009年度代議員による審議＞
　第１号議案　理事会報告
　第２号議案　2009年度事業・決算報告
　第３号議案　代議員および理事・監事選挙報告
　＊＊＊＊　休憩　＊＊＊＊
　　議長選出
＜2010年度代議員による審議＞
　第４号議案　代表理事・監事および執行理事の選出
　第５号議案　2010年度事業計画
　第６号議案　2010年度予算案
　第７号議案　名誉会員の選出
４．閉会

---

１．定款第20条により本総会は役員ならびに代議員による総会となります．ただし定款により正会員は総会に陪席することができます．
２．定款第28条第１項により，代議員には別途，総会開催通知ならびに総会規則にもとづく議決権行使書，委任状などをお送りいたします．ご都合で欠席される方は，議決権行使書または委任状を提出してください．

---

### ■報告■　理事会推薦監事立候補者について

一般社団法人日本地質学会選挙規則ならびに選挙細則に基づき会員以外からの理事会推薦監事候補者として，山本正司氏の立候補届および推薦承諾書を受理しました．なお，本立候補届については，届け出期限を過ぎるという手続き上の間違いがありました．しかしながら，会員外の監事立候補者については，実際上，代議員による投票は行われない仕組みであることと，監事の選任は総会の議決事項でありますので，当選挙管理委員会においては，候補者としての有効性に問題はないと考えます．よって下記の通り，選挙結果として追加ご報告いたします．

【理事会推薦監事立候補者＝当選者　１名】１．山本正司　　山本司法書士事務所所長

2010年４月14日
一般社団法人日本地質学会　選挙管理委員会委員長　松田達生

# シンポジウム，トピック/定番セッションが決まりました

今年第117年学術大会（富山大会：９月18日～20日開催）では下記のシンポジウム・トピックセッション等を予定しております．このほかにも特別講演会や，地質情報展はじめ多数の普及行事も企画・準備中です．募集・予告記事は、次号ニュース誌５月号で掲載予定です．また，講演申込や参加登録は５月末頃受付開始予定です．

日本地質学会行事委員会

**シンポジウム**

| タイトル | 世話人/担当 | 備考 |
|---|---|---|
| 富山深海長谷とその周辺部の堆積作用と後背テクトニクス・気候 | 中嶋　健・高野　修・金子光好 | 一般募集なし |
| 海底地盤変動学シンポジウム「魁！海底地盤変動塾」 | 川村喜一郎・金松敏也・坂口有人・山本由弦 | 一般募集あり |
| ガスハイドレートの起源と環境・資源へのインパクトはどこまで明らかになったか？　研究動向と新展開 | 松本　良・角和善隆・町山栄章・棚橋学 | 一般募集あり |
| 韓日地質学会　室戸合同大会 | 橋本善孝・廣瀬丈洋・江川浩輔 | プレシンポとして，8/23-25別途実施 |
| 南海トラフ沈み込み帯研究の最新成果 | 橋本善孝・氏家恒太郎 | 一般募集なし |
| 故藤田和夫追悼シンポジウム，アジアの山地形成論：日本列島からヒマラヤまで | 酒井治孝・竹村恵二・竹内章 | 一般募集なし |
| 故勘米良亀齢追悼シンポジウム，造山帯を読み解く | 西弘嗣・磯﨑行雄・酒井治孝 | 一般募集なし |
| 島孤地殻で発生するメルト-流体の挙動 -地震学、高圧実験、岩石からの制約 - | 岡本和明・渡辺　了・寺林優 | 一般募集なし |
| 21世紀モホール：マントル掘削計画現状と今後 | 阿部なつ江・海野　進・倉本真一 | 一般募集あり（ポスター） |

**トピックセッション**

| | | |
|---|---|---|
| 地球史とイベント大事件５：宇宙・生命進化・環境変動の謎に迫る | 清川昌一・山口耕生・小宮剛・尾上哲治 | |
| 平野地質：堆積と構造 | 卜部厚志・宮地良典 | |
| 地学巡検・地学名所とガイドブック | 吉田　勝・中井均（日本地質学会地学教育委員会）・天野一男（日本地質学会ジオパーク支援委員会）（予定） | |
| 河口～内湾域における歴史時代の汎世界的な環境変動と人為的環境変化 | 野村律夫・秋元和實・瀬戸浩二 | |
| ジュラ系＋（読み方：ジュラケイプラス） | 松岡　篤・堀　利栄・小松俊文・近藤康生・石田直人・柿崎喜宏 | |
| アジア大陸の地質 | 大藤　茂 | |

**定番セッション**

| | | |
|---|---|---|
| 地域地質・地域層序 | 地域地質部会・層序部会 | |
| 地域間層序対比と年代層序スケール | 層序部会 | |
| 海洋地質 | 海洋地質部会 | |
| 砕屑物組成･組織と続成作用 | 堆積地質部会 | |
| 炭酸塩岩の起源と地球環境 | 堆積地質部会 | |
| 堆積相・堆積過程 | 堆積地質部会・現行地質過程部会 | 昨年までの「堆積相および堆積システム・シーケンス」と「堆積作用・堆積過程」を統合 |
| 石油・石炭地質学と有機地球化学 | 石油・石炭関係・堆積地質部会 | |
| 岩石・鉱物の破壊と変形 | 構造地質部会 | |
| 付加体 | 構造地質部会 | |
| テクトニクス | 構造地質部会 | |
| 古生物 | 古生物 | |
| 噴火と火山発達史 | 火山部会 | |
| 深成岩・火山岩とマグマプロセス | 火山部会・岩石部会 | |
| 変成岩とテクトニクス | 岩石部会 | |
| 岩石・鉱物・鉱床学一般 | 岩石部会 | |
| 情報地質 | 情報地質部会 | ポスター発表のみ |
| 環境地質 | 環境地質部会 | |
| 応用地質学一般およびノンテクトニック構造 | 応用地質部会 | 昨年までの「ノンテクトニック構造」と「応用地質学一般」を統合 |
| 地学教育・地学史 | 地学教育部会・地学教育委員会 | |
| 第四紀地質 | 第四紀地質部会 | |

## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

### 三朝国際インターンプログラム2010の案内

実施期間：2010年７月１日（木）
～８月11日（水）（約６週間）

国際的な研究・教育の推進を目的に，国内外からの学部３・４年生並びに修士課程学生（国籍は問わない）を対象として2005年より継続的に開催されています．参加者は各研究部門（分析地球化学部門，実験地球物理学部門）の教員並び研究者による指導のもと当研究センターが推進している最先端研究プロジェクトに実際に参加していただきます．プログラム終了時には，英語による研究成果発表の実施を予定しています．

このプログラムを通して，高度な実験・分析技術に触れるのみでなく，研究者としての経験や最先端研究への情熱が育まれることを期待しています．

募集人員：10名程度
**応募締切：2010年５月９日（日）**
詳しくは，http://intern.misasa.okayama-u.ac.jp/misip2010/

### 米国地質学会国際大会のご案内

「テクトニクスの十字路：ユーラシア・アフリカ・アラビアの造山帯発達史」
日程：2010年10月３日（日）～８日（金）
場所：トルコ・アンカラ

“Tectonic Crossroads: Evolving Orogens of Eurasia-Africa-Arabia”
A global meeting brought to you by the Geological Society of America (GSA) and GSA's International Section Ankara, Turkey, 4-8 October 2010

Lead Organizers
Yildirim Dilek (Miami University, USA, and The Geological Society of America)
Erdin Bozkurt (Middle East Technical University, Turkey)

Host Organizations
Middle East Technical University, Ankara, Turkey
Chamber of the Geological Engineers of Turkey
Turkish Association of Petroleum Geologists
Partnering Organizations and Meeting Scientific Sponsors
Directorate of the Mineral Research and Exploration Institute
GSA International Section
GSA Structural Geology & Tectonics Division
European Geosciences Union
Geological Society of London
International Geoscience Programme (IGCP), UNESCO

International Organizing Committee
19 members from USA, Canada, UK, France, Germany, Norway, Israel, China, Taiwan, Korea, Japan and New Zealand.

Official Web Site
http://www.geosociety.org/meetings/2010turkey/

**締切：**
**講演要旨：2010年５月10日**
**参加申込：2010年８月23日．**

(Pre-Conference, two courses)
1．Blueschists, Ophiolites and Suture Zones in Northwest Anatolia
Co-leaders : Aral I. Okay & Donna L. Whitney
Duration : 3 days, 1-3 Oct. Participants will arrive in Istanbul (Atatürk Airport); the field trip will start from Istanbul and end Ankara in time for the participants to join the welcoming party.

2．Active Faulting and Archaeoseismology of Western Anatolia
Co-leaders : Erhan Altunel & Serdar Akyüz
Duration : 4 days, 29 Sept.-3 Oct. Participants will arrive in Izmir (Adnan Menderes Airport); The field trip will start from Izmir and end in Ankara in time for the participants to join the welcoming party.

(Post-Conference, five courses)
3．Menderes Core Complex and Extensional Tectonics in Western Anatolia
Co-leaders : Erdin Bozkurt & Hasan Sözbilir
Duration : 6 days, 9-15 Oct. Participants will arrive in Izmir (Adnan Menderes Airport); the field trip will start from and return to Izmir.

4．North Anatolian Fault Zone (along the Çerkeş-Gölyaka segment)
Co-leaders : Ali Koçiğit & Orhan Tatar
Duration : 4 days, 9-12 Oct.

5．Central Anatolian Accretionary Complex : Ankara Mélange
Co-leaders : Bora Rojay, Ender Sarifakioglu & Yildirim Dilek
Duration : 2 days, 9-10 Oct. The trip will start from and end in Ankara.

6．Cappadocian Volcanic Province
Co-leaders : Vedat Toprak & Erkan Aydar
Duration : 3 days, 9-11 Oct. The field trip will start from and end in Ankara.

7．Late Mesozoic-Cenozoic Stratigraphy of Southeast Anatolia and the East Anatolian Fault System
Co-leaders : Dogan Perinçek
Duration : 6 days, 9-14 Oct. The trip will start from Ankara, and the group will fly to the city of Adiyaman in the morning. The trip will end in Hatay (the ancient city of Antioch), and the group will then return to Ankara.

詳細はホームページをご参照下さい．なお，日本人がコンビナーを務めるセッションも複数あります．ふるって参加検討下さい．登録料・巡検費用は３月末現在未定です．

お問い合わせ
石渡　明＜geoishw@cneas.tohoku.ac.jp＞
小川勇二郎＜fyogawa45@yahoo.co.jp＞
（この２名は本大会の日本人国際組織委員）

## 各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

### 第７回（平成22年度）日本学術振興会賞受賞候補者推薦募集

1．趣旨　我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには，創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し，その研究意欲を高め，研究の発展を支援していく必要があります．この趣旨から日本学術振興会は，平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました．

2．対象分野　人文・社会科学及び自然科学にわたる全分野

3．授賞　授賞数は20件程度とし，受賞者には，賞状，賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します．なお，日本学士院により，日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます．

4．対象者　国内外の学術誌等に公表された

論文，著書，その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち，平成22年４月１日現在以下の条件を満たす者とします．
１）45歳未満であること　２）博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含みます．）　３）外国人の場合は推薦時点において我が国で５年以上研究者として大学等研究機関に所属しており，今後も継続して我が国で研究活動を予定していること

５．受付期間　**2010年５月19日（水）～21日（金）（必着）**
**（学会推薦受付締切：５月７日（金）学会推薦です．自薦はありません．）**

６．推薦書類の提出先及び問い合わせ先
〒102-8472　東京都千代田区一番町８番地
独立行政法人　日本学術振興会
総務部　研究者養成課
「日本学術振興会賞」担当
TEL　03-3263-0912　FAX　03-3222-1986
http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/

## 2010年度「信州フィールド科学賞」募集

賞の趣旨：信州大学山岳科学総合研究所は，山岳科学研究のセンターとなることを目指して設立されました．山岳科学研究はフィールド・ワークが基本です．多くの若手研究者が「山」のフィールド・ワークに参画する契機となり，フィールド・ワークをやり遂げた達成感を味わうことが出来るようにとの願いを込め，さらには高校生・大学生の山岳地域における調査・研究を奨励することから，「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」を創設しました．

募集対象：
・**「信州フィールド科学賞」**山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者（2010年度末で35才以下）を対象とします．研究対象や分野は問いません．
・**「信州フィールド科学奨励賞」**Ⅰ種：陸域の自然・文化を対象にフィールド・ワークを行っている高校生を対象とします．
Ⅱ種：「山」におけるフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学の（過去３年間に提出された）卒業論文を対象とします．

受賞：
・「信州フィールド科学賞」：受賞者は毎年度１名とします．信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞20万円を贈呈します．
・「信州フィールド科学奨励賞」：受賞者は毎年度Ⅰ種：１件，Ⅱ種：１名とします．それぞれに，信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞10万円を贈呈します．

募集締切：**2010年６月30日（水）**

応募方法：応募の書式は山岳科学総合研究所のWebサイト＜http://ims.shinshu-u.ac.jp/＞からダウンロードしてください．

応募書類の送付先および問い合わせ先：応募書類は郵送または持参するとともに，電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい．郵送の場合は，2010年６月30日必着でお願いします．
信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム
〒390-8621　松本市旭3-1-1
電話：0263-37-2432　FAX：0263-37-2438
e-mail : suims@shinshu-u.ac.jp

## 2011～2012年開催藤原セミナー募集

趣旨　藤原科学財団は，科学技術の振興に寄与することを目的として，「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から，下記募集要項に基づいて申請を受け，選考の結果採択を決定したものについて，セミナー開催に必要な経費を援助いたします．
対象分野：自然科学の全分野
応募資格：わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者
開催費用援助額：１件につき　12,000千円以内（総額　24,000千円以内）
セミナーの要件：
(1) セミナーは，国際的にも学問的水準の高いものとし，そのテーマはなるべく基礎的なもので，関連分野を含めた発展に寄与するものであること．但し二国間会議，定期的に行われる国際会議，およびその準備会議，サテライト会議は対象としない．(2) 参加者は，50～100人程度とし，外国人研究者が参加者の５分の１程度含まれること．なお，国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する．(3) セミナー開催対象期間は，2011年１月～2012年12月末日 (4) セミナーの開催地は，日本国内であること．(5) セミナー開催日数は，2-4日以内とする．(6) 参加者が，セミナー開催期間中，起居を共にすることを原則とし，計画された講演・討論のほか，個人的な討論など自由な雰囲気で学問的な交流と人間的接触を深め，永続する協力の基盤を作るようなものであること．

申請受付締切：**2010年７月31日（土）（必着）**
＊申請書は，ホームページからPDFファイルをダウンロード出来ます．

申請書提出先・連絡先：
〒104-0061　東京都中央区銀座3-712
（財）藤原科学財団
TEL（03）3561-7736
FAX（03）3561-7860
http://www.fujizai.or.jp

## 公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

## 広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教授公募

１．職種および人員：教授１名
２．専門分野：本専攻の中期計画の目標「地球惑星進化素過程の解明と地球環境の将来像の予測」に沿い，地球惑星システムにおける地球惑星進化学，地球ダイナミクス，地球環境学に関連した分野
３．応募資格等：
(1) 博士の学位を有すること
(2) 本専攻の現研究グループと協調して意欲的に研究にあたり，専攻の発展に大きく貢献しうること
(3) 学部および大学院の授業を担当し，学部生・大学院生の教育と研究指導に意欲的であること
４．応募締切：**2010年５月31日（月）必着**
５．着任予定時期：採用決定後なるべく早い時期
６．提出書類：
(1) 履歴書
(2) 研究業績リスト（必ず，①査読有り原著論文，②査読無し原著論文，③総説（review），④著書，⑤その他，に区分して記述すること）
(3) 主要な論文の別刷（またはコピー）10編以内
(4) これまでの研究概要と着任後の研究計画（Ａ４用紙1-2枚程度）
(5) 地球惑星科学教育に対するこれまでの実績と着任後の抱負（Ａ４用紙1-2枚程度）
(6) 研究費等外部資金獲得の実績（過去10年間程度）
(7) 応募についてご意見をいただける方（２名程度）とその連絡先
７．選考方法：書類選考の上，面接を行うことがあります．面接にあたり必要となる旅費等は応募者の負担となります．
８．送付先および問合せ先：
〒739-8526　東広島市鏡山1-3-1
広島大学大学院理学研究科
地球惑星システム学専攻
教授選考委員会委員長　日高　洋
Tel. : 082-424-7464，Fax. : 082-424-0735
E-mail: hidaka@hiroshima-u.ac.jp

当専攻の教育研究活動は下記のホームページを参照ください．
http://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp/~info/GS/index.html

## IODP掘削航海（３航海）乗船研究者募集

2011年にJOIDES Resolutionにて実施予定の掘削航海（３航海）の乗船研究者を募集いたします．詳細は各航海のページをご覧ください．**いずれの募集も５月15日（土）が締め切り**となっております．奮ってご応募下さい．

◇Costa Rica Seismogenesis Project（CRISP）
（IODP重点研究カテゴリ：地震発生体の包括的理解）
航海予定期間：2011年３月15日～４月16日
＞http://www.j-desc.org/m2/expeditions/CRISP.html

◇Superfast Spreading Rate Crust 4
（IODP重点研究カテゴリ：巨大海台，海洋地殻，大陸縁の形成と進化の解明）
航海予定期間：2011年４月16日～５月19日
＞http://www.j-desc.org/m2/expeditions/superfast4.html

◇Mid-Atlantic Microbiology
（IODP重点研究カテゴリ：地下生物圏の探査）
航海予定期間：2011年９月中旬～11月中旬
＞http://www.j-desc.org/m2/expeditions/mid_atlantic_microbio.html

## 東京大学地震研究所教員公募

１．公募人員：准教授１名
２．研究分野：ナノスケール地球科学分野
粒界や転位などのナノスケールでの岩石鉱物の振る舞いに基づいて，地球内部物性，特にレオロジーを実験的に解明する人材を募集する．地震研究所の観測および物質科学各分野と協力して，地球内部構造，ダイナミクス，地震発生を理解するための新しい視点を開拓していく意欲のある方が望まれる．また，このような研究活動を通じて，次世代の人材育成のための大学院教育にもかかわることが期待される．
３．採用予定時期：決定後できるだけ早い時期
４．応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
５．任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により，満55歳を超えることとなる教員の所属する組織（分野）の職に任期を定め，その職の任期は５年以内とする．再任については本研究所教授会の承認を得た場合は１回限り可（ただし，東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）．なお，詳細については，問い合せ先に照会のこと．
６．提出書類：(1) 履歴書（市販用紙可）(2) 業績リスト（査読の有無を区別すること．投稿中の論文も含む．）(3) 主要論文の別刷り３編程度（コピー可）(4) 研究業績の概要（2000字程度）(5) 今後の研究・教育計画（2000字程度）(6) 応募者について参考意見をうかがえる方（２名）の氏名と連絡先とe-mail
７．応募締切：**平成22年６月14日（月）**午後４時　必着
８．問い合せ先：東京大学地震研究所物質科学系研究部門　中井　俊一
TEL：(03) 5841-5698
FAX：(03) 5802-3391
E-mail : snakai@eri.u-tokyo.ac.jp
９．応募書類提出先：
〒113-0032　東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所　庶務チーム（人事）宛

詳細は，HPをご参照ください．http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html

**公募結果**
山形大学理学部地球環境学科
公募人事（准教授）結果
本山　功（４月１日着任）

# 博物館だより

## 大阪市立自然史博物館

### 特別展「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」ほか

大阪市立自然史博物館では，特別展「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」を開催中です．

本展の主人公は，ゴンドワナ大陸に生息した恐竜たちです．本展では史上最大級の肉食恐竜「マプサウルス」（アルゼンチン産）の成体と幼体の復元骨格を同時公開します．この「親子」の標本は，複数の個体が同じ場所から発見されたということで，単独行動が基本といわれていた大型肉食恐竜の新たな生態が浮かび上がってきた大変貴重なものです．本展が，多くの人々にとって恐竜への関心を深め，さらに，地球の歴史や環境変化について考えるきっかけになれば幸いです．また，本展で紹介する最新の研究成果が，今後の学術発展に深く寄与することを願っております．

期間：**2010年３月20日（土）～５月30日（日）**
会場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター２階）（大阪市東住吉区長居公園1-23）
主催：大阪市立自然史博物館，読売新聞大阪本社
入場料：大人1200円，高校・大学生700円．中学生以下，障害者手帳等持参者（介護者１名を含む），大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料．30名以上の団体割引あり．

関連イベントなども多数あります．詳しくは，http://www.osaka-event.com/event/10daikyoryu/

**■「地質の日」協賛行事：第27回地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？ー大阪平野の地下水を可視化するー」**
日時：５月９日（日）14時30分～16時30分

場所：大阪市立自然史博物館　講堂
（大阪市東住吉区長居公園1-23）
詳細は本誌p.11地質の日イベント欄を参照．

## 紹　介

### 写真で見る宮崎県の地学ガイド

### 足立富男

宮日文化情報センター，
2010年１月１日発行，222ページ，
定価2000円（税込），
ISBN978-4-904186-15-2C3025

本書は宮崎県下の主要な地質見学地122地点の，写真を主にしたガイドブックである．本書の構成は，最初に宮崎県の地史の概要が，プレートと付加体形成の考え方に基づいて述べられ，次に宮崎県の地質の総括表により，宮崎県に関連した火山活動，特に南九州の地質を語る場合に欠かせないテフラの活動時期が簡潔にまとめられている．県外からの調査の際には，まず調査場所を特定することが最初の作業となるが，本書では掲載された地点について，行政区分に基づいた一覧表がつくられている．さらに地質項目による一覧表があるので，テフラ，枕状溶岩，構造線，断層などのように，関心のある事項が，本書内のどこにあるか検索できるように編集されている．そのほか本書で取り上げた地点の，宮崎県下での位置を５万分の１地形図にしめした一覧表と項目索引があり，撮影された写真の位置がよく解るように配慮されている．

ガイドブックの重要性は，場所の案内と同時に初心者に興味を持ってもらうことと，理解してもらうことにあるが，本書はその点にも配慮し，難解な地質用語には索引を付けると共に，いくつかのコラムを設け解りやすく解説されている．また地方には地元の者にも読めない地名が少なくないが，難読地名の一覧表は，県外からの来訪者には適切な配慮と思う．

宮崎県の地質に関するガイドブックは，30年前に「宮崎県地学ガイド」が出版されていたが，長く絶版となっていた．この間，県内には多くの発見，新知見が相次ぎ，古生物の分野では，直径が30センチの巨大アンモナイトや，メガロドンなどが発見され，これらの一部は県立博物館へ展示されている．また県北の延岡ではシュードタキライトの露頭が知られ，県外から多数見学者が訪れている．土木工事により発見された露頭も多数あり，県内でのシラスの分布範囲が従来より拡がっていることも判明した．またシラスの崖からは，自然にできた球状シラス（シラスバルーン）が発見された．これは土木関係者から，シラスがガラスであれば密度が2.7程度であるにもかかわらず「何故2.3なのか」と言う疑問があったが，球状シラスの発見がこの疑問に答えることになった．

新しい発見と同時に，工事により埋められたものや，時代の変化に伴い消滅し埋もれて行くもの，時間の経過に従い風化の進むものもあった．宮崎県と大分県との境界となる山地には，江戸時代に開かれ昭和40年代初頭まで続いた多くの鉱山が稼働していたが，閉山が相次ぎ，現在では坑口さえも解らなくなった鉱山跡が多数ある．本書ではこれらについても詳述され，特に県内有数の槇峰鉱山の，故宮久三千年教授による精密なスケッチは，消えて行く鉱山の歴史を後世に伝える上で，貴重なものとなると思う．

ガイドブックの重要性はわかりやすさと同時に，編集された時の状態を記録するという役目もある．特に火山や風化しやすい岩石の場合，撮影された時代の証言となる．

宮崎県と鹿児島県との県境を構成する霧島山系には多くの活動的な火山があり，今も噴煙を上げている．このうちの新燃岳はここ数年でも，火口周辺への噴泥，火口湖の変色などの活動が見られた．火口湖の変色は数ヶ月で元に戻ったが，本書では火口湖の変色時の写真が掲載されているので，これは貴重な記録となるであろう．風化による岩石の変化も重要で，掲載されたシェブロン褶曲は，著者が道路工事直後に撮影したものであるが，現在は風化により薄れ，ほとんど見えなくなっている．また門川町にある尾鈴火砕流が門川層を覆った露頭は，土木工事により現れたものを，著者らの尽力で天然記念物となったものであるが，風化により掘削当時とは大きく色が変わっているので，本書の写真は貴重な記録となる．同時に露頭の自然状態での保存の難しさも提起している．

本書はこれから宮崎県の地質を知ろうとしている者にとっては，ガイドブックとなり，また自然保護，ジオパークの活動関係者にとっても貴重な参考図書になるだろう．

本書からは，地質学が発見の科学であることを改めて認識させてくれると同時に，著者の宮崎県の自然に対する限りない愛情を感じる．

終わりに著者の紹介をすると，著者は長く宮崎県内の高校で物理・地学を教えながら，鉱物や化石の発掘を行ってきた在野の研究者であるが，鉱物採取の分野では，県内に多数あった鉱山跡をくまなく歩き「宮崎に行くときは，まず足立に聞け」と言われている程，この分野では知られた人である．また宮崎県には宮崎応用地質研究会があり，地学関係者は知識・情報の交換を行っているが，著者はこの研究会の創立以来のメンバーで，現在も率先して巡検を行い会の指導的役割を果たしている．巡検時に撮影された露頭のうち神門層中の枕状溶岩，猪崎鼻の流痕化石は各々News誌の表紙を飾り，また市木海岸の火炎構造は地質百選（日本列島ジオサイト地質百選）に掲載された．最後に著者の個人的なことに触れると，著者は現在，放送大学の学生で，巡検の昼食時に「明日数学の試験がある」と言って笑っておられるが，1923年の生まれ，今年87才である．

なお本書は著者の自費出版のため，購入希望の方は下記へご連絡ください．

〒899-0622
門川町西栄町３丁目2-26　足立富男
Tel & Fax：0982-63－4522
e-mail：t_adachi@taupe.plala.or.jp
宮崎応用地質研究会HP：
http://moyo2006.web.fc2.com/

**（高谷精二）**

### ホルツ博士の最新恐竜事典

### トーマス・R・ホルツJr.　著
### ライス・V・レイ　イラスト
### 小畠郁夫　監訳

朝倉書店，2010年２月25日初版第１刷，
467ページ，定価（本体12000円＋税），
ISBN 978-4-254-16263-9 C 3544

国立科学博物館名誉館員である小畠郁夫氏（理学博士）がこのたび“Thomas R. Holtz, Jr. : DINOSAURA The most Complete, Up-to-Date Encyclopedia for Dinosaur Lovers of All Ages”（Random House Chidren's Books, New York, America, 2007）を日本の監訳にされたとのお知らせを受けた．この本

はまさに最初にある「はじめに：恐竜の世界 The World of Dinosaurs　変化する恐竜の世界」によく示されている．

このアメリカ本書の“DINOSAURA”について，小畠郁夫氏監訳を中心に，「池田比佐子・加藤　珪・舟木嘉浩・舟木秋子（訳）」による「変化する恐竜の世界」が著され，初版されている．この恐竜の特性を明らかにするためにも，ここに本書を示したい．

本書は次の構成からなる．

1．恐竜発見の歴史　History of Dinosaur Discoveries（12．マシユー・C・ラマンナ博士：恐竜学最前線）
2．岩石と環境　Rocks and Environment
3．化石と化石化作用　Fossils and Fossilization（22．カレン・サン博士：恐竜の糞を相手に奮闘）
4．地質学的時間　Geologic Time　恐竜化石の古さとその調べ方（23．レイモンド・R・ロジャーズ博士：どのくらいの古さ？地質上の生物の進化）
5．発掘現場から博物館へ　From the Field to the Museum　化石発見（33．ジェイソン・「サューイ」・プール：恐竜を組みたてる）
6．恐竜を生き返らせる　Bringing Dinosaurs to Life　恐竜アート
7．分類学　Taxonomy　恐竜の名前はなぜ奇妖なのか？（45．ベン・クライスラー：恐竜の名前の研究）
8．進化　Evolution　変化をともなう系統
9．分岐論　Cladistics　恐竜の系統樹を作成
10．脊積動物の進化　Evolution of the Vertebrates
11．恐竜の起源　The Origin of Dinosaurs
12．竜盤類　Saurischians　トカゲのような骨盤をもつ恐竜
13．コエロフィシス類とケラトサウルス類 Coelophysoids and Cetratosaurs　原始的な肉食恐竜（86-87．ロン・ティコスキ博士：小さな獣脚類，大きな発見．フェルナンド・E・ノバス博士：ケラトサウルスの多様性）
14．スピノサウルス上科の恐竜 Spinosauroids　メガロサウルス類と背中にひれのある魚食恐竜（97．アンジェラ・C・ミラナー博士：魚を食べる巨大恐竜スピノサウルス類）
15．カリノサウルス類　Carnosaurs　巨大な肉食恐竜（106-107．フィリップ・J．カリー博士：群れで狩りをする巨大恐竜；エミリー・レイフウィールド博士：アロサウルスの採食習慣）
16．原始的なコエルロサウルス類 Primitive Coelurosaurs　羽毛をもった最初の恐竜
17．ティラノサウルス上科の恐竜 Tyrannosauroids　暴君恐竜（128-129．トーマス・D・カー博士：ティラノサウルスの若もの－暴君トカゲとともに成長する；グレゴリー・M・エリクソン博士：骨に応える一再び骨をかんでティラノサウルス・レックス）
18．オルニトミモサウルス類とアルファレズサウルス類　Ornaithomimosaurs and Alvarezsaurs　ダチョウ恐竜と親指にかぎ爪をもつ恐竜（139．小林快次博士（現在の北海道大学総合博物館）：大きな鳥もどき―オルニトミモサウルス類）
19．オヴィラプトロサウルス類とテリジノサウルス上科の恐竜　Oviraptorosaurs and Therizinosauroids　卵どろぼうとナマケノ恐竜
20．デイノニコサウルス類 Deinonychosaurs　ラプトル恐竜
21．鳥群　Avialians（172-173．ルイス・キアッベ博士：最初期の鳥類；ケヴィン・パディアン博士：鳥類の飛行の起原）
22．古竜脚類　Prosauropodos　原始的な首の長い植物食恐竜
23．原始的な竜脚類　Primitive Sauropods 初期の巨大な首長恐竜（189．ポール・アプサャーサ博士：最大の恐竜の生存―竜脚類の適応）
24．ディプロドクス上科の恐竜 Diplodocoids　むちのような尾をもつ巨大な首長恐竜（201．ジェフリー・A・ワイルソン博士：竜脚類の進化）
25．マクロナリス類　Macronarians　大きな鼻，長い首をもつ巨大な恐竜
26．烏盤類　Ornithischians　鳥類のような骨盤をもつ恐竜
27．原始的な装厘類　Primitive Thyreophorans　装甲をもつ初期の恐竜
28．剣竜類　Stegosaurs骨板をもつ恐竜
29．よろい竜類　Ankylosaurs　戦車のような恐竜
30．原始的な鳥脚類　Primithopods　くちばしがある原始的な恐竜（249．パトリシア・ヴィツカース・リッチ博士：たくましい小型恐竜）
31．イグアノドン類　Igoanodontians　くちばしがある進化した恐竜
32．ハドロサウルス類　Hadrosauroida　カモノハシ竜（267．マイケル・K・ブレット－サーマン博士：ハドロサウルス類）
33．厚頭竜類　Pachycephalosaurs　ドーム状の頭部をもつ恐竜（275．ラルフ・E・チャップマン博士：石頭恐竜―厚頭竜類
34．原始的な角竜類　Primitive Ceraropsians オウムのようでフリルがある恐竜（283．マーク・A・ノレル博士：争っている姿で－モンゴルで発見された「闘争化石」）
35．ケルトプス類　Ceratopsids　角がある恐竜（291．スコット・D・サンプソン博士：恐竜の雌雄－見分かられるか？）
36．恐竜の卵と赤ん坊　Dinosaur Eggs and Babies（300-301．ジョン・R・「ジャック」・ホーナー博士：恐竜の成長速度；クリスティーナ・カリー・ロジャーズ博士：恐竜の成長－アバトサウルスの例）
37．恐竜の行動　Dinosaur Behavior　恐竜の行動はどうすればわかる？（308-309．マシュー・T・カラノ博士：歩き，走る恐竜；ジョン・R・ハッチンソン博士：T・レックスについていく―どのくらいの速さで走れたのか）
38．恐竜の体の働き　Dinosaur Biology　生きている恐竜（321-322-323．アヲスヤ・チンスミー＝チュラン博士：恐竜の体を内働から探る―骨からわかること；ピーター・ドッドソン博士：恐竜は温血か冷血か；エリザベス・リーガ博士：恐竜の古病理学）
39．三畳紀の生物　Life in the Triassic Period
40．ジュラ紀の生物　Life in the Jurassic Period（343．ロバート・T・バッカー博士：ジュラ紀の刑事）
41．白亜紀の生物　Life in the Cretaceous Period（354-355．ロドルフォ・コリア博士：南アメリカの恐竜；ダリン・ナッシュ博士：ヨーロッパの恐竜）
42．絶滅　Extinctions　恐竜の世界の終わり（365．メアリー・ヒグビー・シュヴァイシァー博士：ジェラシックパークは実現するか？）

恐竜リスト（366-369．小島都夫氏を中心とする恐竜の化石の様子について　41ページの「恐竜リスト」としている）

監訳者あとがき（447-450．小畠郁夫氏による本書の恐竜学の様子が良く示されている）

以上のように，本書はアメリカを中心とする恐竜学の様子が良く示されていて，地質学の世界的な進化学の理解を深めている．本書を強くお薦めしたい．

**（岡田博有）**

元日本地質学会会長　立岩　巖氏の朝鮮半島における研究の足跡をご子息寧氏によって日本経済新聞紙面にて紹介されています．新聞社および寧氏の許可を得て，会員の皆様にご紹介いたします．

TOPIC

# 地質調査　日韓に信頼培う：日本統治下の朝鮮半島　海を渡った父の研究の足跡

立岩　寧（郷土史研究者）

1910年（明治43年）の韓国併合から今年で100年．日本の朝鮮半島支配の歴史を語るとき抜け落ちてしまいがちだったのが，朝鮮半島に渡った日本人の存在だ．

そんな在朝鮮日本人の一例として，わたしの父，立岩　巖（1894～1982年）を紹介したい．東京帝国大学（現東京大学）地質学科を卒業後すぐに朝鮮に渡り，朝鮮総督府の地質調査所に勤務．技師，所長として，45年の敗戦まで26年間を現地の地質調査にささげた．朝鮮半島における近代地質学の草創記を担った人物といえる．

## 未踏の野山ひとり探索

父は福島県郡山市の出身．立岩家はかつて明治維新後に大久保利通が音頭を取って進めた福島・安積開拓に参加した歴史がある．穏やかだか，内に頑固で曲がらぬ一本の軸を持つ父の性格は，こうした開拓者精神を受け継いだのかもしれない．

1919年（大正８年）に大学を卒業．おそらく先生の推薦があったのだろう．すぐに日本統治下の朝鮮にわたり，朝鮮総督府地質調査所の技師になった．ソウルの中心部，南山のふもとに広がる日本人街「大和町」の総督府官舎に身を落ち着けた．母と結婚，わたしを含め６人の子どもが生まれた．父は朝鮮半島に骨をうずめる気持ちでいたようだ．

地質調査の技師の仕事は朝鮮半島全土をひたすら訪ね歩き，各地の地質を調べ，有用な地下資源を発見すること．父の姿で今でも目に浮かぶのは，足にゲートルを巻いてリュックを背負った姿だ．「では，行ってくるよ」と玄関を出てから半月，１ヵ月帰ってこないことはざらだった．

調査といっても１人きりで行く．人跡未踏の野山を分け入り，朝鮮の人びとが暮らす集落にもこだわりなく入っていって，一夜の宿を借りることもあった．父は食べられる野草の知識がとても豊富で，あるときわけを聞いたら「調査に行った先で友達になった朝鮮の人がいろいろ教えてくれるんだよ」と笑っていた．

地質調査　日韓に信頼培う
○日本統治下の朝鮮半島　海を渡った父の研究の足跡
立岩　寧

日本経済新聞掲載記事より

朝鮮半島はマンガンやタングステンなど希少金属の埋蔵が豊富で，多くは現在の北朝鮮半地域にある．父から聞いた地名も中国との国境にある「白頭山」「蓋馬高原」など半島北部のものだった．調査所ではこうした地下資源の分布を縮尺５万分の１の「地質図幅」計61枚にまとめた．

故　立岩　巖先生
（地質雑vol.88, no.12追悼記事より）

## 敗戦時の引き継ぎ円満

調査から帰ってくると「図幅」の作製に没頭する毎日．根っからの学究肌だった父は，日本による朝鮮半島の統治をどう思っていたのだろうか．わたしが中学生のころ，総督府が土地所有権の確定のために進めた「土地調査事業」を評して「あれは近代的な仕組みを装った『収奪』だ」と話してくれたのを思い出す．総督府の官吏，自然科学の研究者という２つの立場の折り合いをどう付けけるのか．父は悩んでいた．

45年の敗戦時，父は地質調査所の所長を務めていた．総督府の他部署や街では日本人と朝鮮人の間でいさかいが頻発し，略奪まであったという話も耳にしたが，調査所では円満に事務の引き継ぎができた．所員は学究肌で冷静な人間が多く，現実の政治と日々の業務で培った信頼関係は別ものという雰囲気があった．同年10月，会津若松の連帯に入営していたわたしが復員し，11月に家族で日本に引き揚げた．

その後，父は九州大学や東大の教授を歴任し，日本地質学会の会長も務めたが，心の底には常に朝鮮半島の地質調査の思い出が潜んでいた．引き揚げ時に何も資料を持ち帰れなかった悔しい過去もあり，研究者や研究機関に「地質図幅」を含む資料の提供を熱心に呼びかけた．父は82年に亡くなったが，残った資料はダンボール箱19個に及んだ．

## 思いの結晶の資料寄贈

父の思いが詰まった資料をどう扱うべきか，ずっと悩んできた．転機は数年前．わたしの母校，ソウルの旧制龍山中学の同窓会で悩みを打ち明けると，友人の一人が「韓国に寄贈するのが一番だ」と言ってくれた．

2009年夏，思いがけず寄贈が実現することになった．韓国地質資源研究院の張浩完院長が父の墓参りをしたいと郡山を訪ねてくれたのだ．張院長によると同研究院は総督府地質調査所の後身であり，今度韓国の地質調査研究の歴史を編纂することになったので，父の墓前で報告をしたいという．張院長は丁重に花を供え，数分間も墓前を離れなかった．「この人なら父の資料を託せる」と，その場で決めた．

09年秋にはわたしが韓国を訪れ，大田市にある地質資源研究院で感謝牌をいただいた．韓国では朝鮮戦争で多くの学術資料が焼失し，父の資料は大変貴重なのだという．「立岩巖」の名を冠した文庫を設けて公開・活用したいとも言ってくれた．地質学が取り持った日韓交流のささやかな歴史．いまだ遠い部分も残る両国を少しでも近づけるきっかけになればうれしい．

（日本経済新聞2010年３月11日（木）文化欄掲載記事より，全文を転載）

TOPIC

# 高知県天然記念物に指定された震源断層

**鈴木堯士**（高知大学名誉教授）

2010年３月30日，高知県高岡郡四万十町小鶴津海岸のシュードタキライト（pseudotachylyte）を含む約5000万年前の震源断層が高知県天然記念物に指定された．地球表層の全地震エネルギーの90％以上は，プレート沈み込み帯である海溝を起源としており，南海地震などに代表される海溝型巨大地震の震源断層は重要な研究対象となる．しかしその震源は数km以上の地下深部に存在し，これを掘削して直接分析することは未だ実現していない．

四万十帯は，プレートの沈み込み作用に伴って形成された付加体であり，そこには過去の沈み込み作用の歴史が記録されている．過去の海溝型巨大地震の震源断層化石が，陸上付加体のどこかに露出しているのではないかという推測はあったが，確たる証拠もなく発見されないままであった．四万十帯ほど詳細に調査されている付加体は他になく，世界の付加体研究の最前線である．とりわけ高知大学を中心とした四万十帯の詳細な研究の積み重ねが，この震源断層の発見に結びついた（写真１）．

2001年に，当時高知大学理学部学生であった池沢栄誠さんが坂口有人氏（当時高知大助手・現海洋研究開発機構）の指導の下，卒業論文のため四万十町小鶴津地域で入念な調査と分析を試みた結果，プレート沈み込み帯巨大地震の震源断層の発見につながった（「興津断層」と命名）．

地震の化石（シュードタキライト）自体は，これまでも世界のみならず国内各地でも発見の報告がいくつかある．しかし，いずれも内陸直下型の震源断層であり，プレート境界における海溝型の震源断層は長らく未発見のままであった．

従来は，付加体のようなプレート沈み込み帯には水が豊富に含まれるので，断層摩擦でも高温にはならず，シュードタキライトはできないと教科書に書かれてきた．興津断層のシュードタキライトは，沈み込み帯における世界で初めての発見であり，その後の断層研究の方向性を決定づける重要なマイルストーンとなった（写真２・３）．研究成果はアメリカ地質学会の著名な学術誌「Geology」に2003年に公表され，国際学会にも大きなインパクトを与え，プレート境界の巨大地震研究では頻繁に引用される論文となっている．また，発見の報は多くの国内メディアに取り上げられ，新聞のトップ記事や社説，高校地学の副読本などにも掲載された．この興津断層での発見を皮切りに，その後付加体でのシュードタキライト探しが始まったが，世界中でも今のところ米国アラスカ州コディアック島，高知県四万十町久礼，徳島県牟岐町，宮崎県延岡市でしか見つかっていない．

四万十町小鶴津の海岸では，幅10数ｍの厚い断層破砕帯とシュードタキライトを壁および岩礁帯で立体的に観察できる．さらにもう一つの沈み込み帯震源断層の特徴である赤茶けた炭酸塩鉱物であるアンケライト（ankerite）の脈や岩塊がシュードタキライトと共に見出される（本誌表紙参照）．アンケライトは地震で破壊され，強度を失った岩盤を再び強固にする接着剤的役割を果たしていると考えられる．また枕状溶岩を含むメランジュなど付加体に典型的な岩石も観察できる．これらの岩石は過去のものであるが，現在の沈み込み帯でも同種の現象が起きているはずであり，ここから現在の南海地震の震源で何が起きているのかを推測することができると考え，今後の研究の進展が期待される．

**写真１．震源断層（興津断層）の全景．北側より**

**写真２．震源断層中のシュードタキライトの脈（黒色部）**

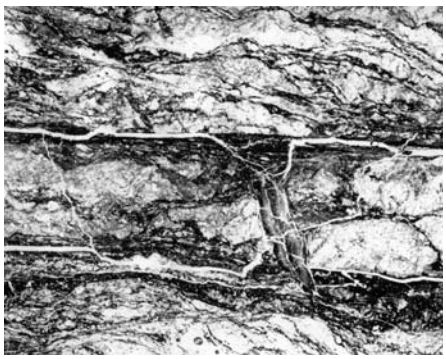


**写真３．シュードタキライト（ガラス質：黒色部）の偏光顕微鏡写真．横幅約２cm**

高知県には，近代地質学の進歩・発展により，地質学的に貴重な露頭がいくつかある．これらの露頭も人工的あるいは河川・波浪などの自然的な原因で破壊・埋没され，消滅する危険性があり，自然保護の立場および地質学に対する関心の向上の立場から今後も天然記念物指定へ向けて努力していく必要があると考える．

5月10日は 地質の日

2010年の「地質の日（5/10）」に関連した学会の催しをご紹介します．

## ★日本地質学会：本部イベント企画

### 写真家白尾元理講演会「地球史46億年を撮る」

日時：**2010年５月８日（土）**13：30～15：30
場所：東京大学小柴ホール（東京都文京区本郷）
講師：白尾元理氏（写真家・日本地質学会会員）
入場無料・事前申込不要（定員170名）

多少の困難を乗り越えても現地に立ち，五感を研ぎ澄まして地球の鼓動や悠久の営みを肌で感じること．これが白尾元理さんの写真の原点だそうです．今回は，地球の46億年を，白尾さんご本人に写真で案内していただきます．撮影秘話なども．

ジオ写真展も同時開催：
白尾さんの写真と惑星地球フォトコンテスト入選作品の展示も行います．
問い合わせ先：日本地質学会事務局
TEL　03-5823-1150
FAX　03-5823-1156
E-mail : main@geosociety.jp
http://www.geosociety.jp

## ★北海道支部：「地質の日」・「国際博物館の日」記念展示

### 北海道大学総合博物館企画展示「わが街の文化遺産　札幌軟石」

地質学会北海道支部は他団体と共催して，2010年「地質の日」記念展示を開催します．

支笏火砕流に由来する札幌軟石は，明治以降たくさんの建物をつくってきました．往時の建物は姿を消しつつありますが，歴史的建築物を含め，街なかに名残を見つけることができます．

市民グループの数年間にわたるフィールドワークによって，札幌軟石の建物などはカメラに収められ，その数は1,500を超えました．これらは札幌市の文化遺産であるとともに，地質遺産ともいえます．

大勢の方に遺産の意義をご理解いただけるよう，この展示では軟石の切り出し～運搬や今はなき歴史的建築物の姿もお目にかけます．札幌軟石の栄光の時代をしのび，これからの利用法や遺産の生かしかたをともに考える機会にしましょう．

関連イベントのミニツアーは，地質露頭の説明・軟石建物の見学・軟石切り出し実演など，地質と歴史をたどります．会員のみなさまには，ご参加とともに，まわりのかたにお知らせいただければ幸いです．

主催：札幌建築鑑賞会・札幌軟石文化を語る会・日本地質学会北海道支部・北海道立総合研究機構地質研究所・北海道大学総合博物館
期間：**2010年４月27日（火）～５月30日（日）**10：00～16：00（休館　5/6，10，17，24）
会場：北海道大学総合博物館１階「地の統合」コーナー
関連イベント：
5/1（土）ワークショップ「札幌軟石クラフトに挑戦！」
5/1（土）講演会「札幌軟石　いま・昔」
5/8（土）ミニツアー「札幌軟石ウォッチング」（要申込：往復はがき）
お問い合わせ：北海道大学総合博物館
札幌市北区北10条西８丁目
TEL : 011-706-2658，FAX : 011-706-4029
E-mail : museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

（文責：宮坂）

## ★関東支部

### 第２回地質技術伝承講習会：地質技師長が語る地質工学余話

**「共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱」**

関東支部では，６月６日（日）に第２回地質技術伝承講習会を開催します．多数の皆様のご参加をお待ちしています．
日時：**2010年６月６日（日）**14：00～16：30
場所：北とぴあ（東京都北区王子1-11-1）飛鳥ホール
講師：中村　裕昭氏（株式会社地域環境研究所）
テーマ：共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱
共催：（社）全国地質調査業協会連合会　関東地質調査業協会
後援：（一般社団法人）日本応用地質学会

参加費：無料，どなたでも参加できます．
申し込み方法：公開中のジオ・スクーリングネットによる登録または学会へのFAX，下記担当幹事へのe-mailにて受け付けます．
1）ジオ・スクーリングネット；https://www.geo-schooling.jp/
2）関東支部担当幹事　緒方信一；中央開発（株）ogata@ckcnet.co.jp（兼，問合せ先）
3）日本地質学会事務局気付　関東支部　FAX：03-5823-1156

## ★近畿支部：「地質の日」協賛行事

### 第27回地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？－大阪平野の地下水を可視化する－」

地質学会近畿支部では，「地質の日」協賛行事として，地学団体研究会大阪支部と大阪市立自然史博物館との共催で，第27回地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？－大阪平野の地下水を可視化する－」を開催します．

「天然温泉」の看板を街の中で見かけることがあります．温泉好きの私たちにとっては，安くて近い息抜きの場です．火山のない大阪になぜ温泉が出るのか，不思議に思ったことはありませんか．平野部にある温泉は，とても深い場所にある地下水なのです．中には変わった泉質を持つものもあります．でも，地下水という点では，上町台地の湧水と同じです．ここでは，

目には見えない大阪平野の地下水の流れを話します．地下水とは何か，河川水とどう違うのか，そしてどうつきあえばいいのか，一緒に考えたいと思います．多くの方のご参加をお待ちしております．

日時：**2010年5月9日（日）**14：30〜16：30
場所：大阪市立自然史博物館講堂（大阪市東住吉区長居公園1-23）
講師：益田晴恵氏（大阪市立大学大学院理学研究科教授）
主催：日本地質学会近畿支部，地学団体研究会大阪支部，大阪市立自然史博物館
申込不要．直接会場へお越しください．
参加費：無料．ただし，博物館入館料（大人300円，高校・大学生200円）が要．
問い合わせ先：大阪市立自然史博物館
TEL　06-6697-6221　FAX　06-6697-6225

## ★西日本支部：後援「地質の日」企画

### 身近に知る「くまもとの大地」

日時：**2010年5月9日（日）**10：00〜16：00
場所：熊本市通町筋上通り入り口　びぷれす広場（熊日ビル）
企画：
◎おどろきの展示コーナー
阿蘇火山の噴火/熊本の地質・化石/熊本県の自然災害
◎わくわく体験コーナー
化石に親しむ/阿蘇カルデラのでき方を探る
◎なるほど解るコーナー
ここが問題-自然災害への対応，地質・岩石・化石……何でもお答えします
☆熊本と世界・日本のジオパークコーナー
天草御所浦ジオパークの紹介/世界・日本のジオパーク紹介
☆博物館・資料館の情報コーナー
・各館のパンフレット，案内図など/グッズ販売

主催：「地質の日」くまもと実行委員会（長谷義隆・松田博貴・磯部博志・小松俊文・田中　均・池上直樹・北村直司・池辺伸一郎・後藤英幸・松本一英）
共催：日本堆積学会，熊本大学（大学院自然科学研究科地球環境科学講座・社会環境工学講座，教育学部地学教室），天草市立御所浦白亜紀資料館，御船町恐竜博物館，熊本市立熊本博物館，（財）阿蘇火山博物館，熊本県地域振興部文化企画課松橋収蔵庫，熊本県地質調査業協会，阿蘇ジオパーク推進協議会，天草ジオパーク構想推進協議会
後援：日本地質学会西日本支部，NPO法人熊本自然災害研究会，熊本県地質図編纂委員会，熊本地学会，くまもと地学教育研究会，熊本県高等学校教育研究会地学部会，阿蘇地域振興デザインセンター，御所浦アイランドツーリズム推進協議会，熊本日日新聞社，熊本放送

問い合わせ先：松田博貴
〒860-8555　熊本市黒髪2-39-1
熊本大学大学院自然科学研究科　地球環境科学講座
電話：096-342-3424，FAX：096-342-3411，
e-mail : hmat@sci.kumamoto-u.ac.jp

## 委員会だより

**☆継続教育委員会**

### 2009年度「土質・地質技術者生涯学習協議会」の報告

表記の協議会が2010年2月26日に日本応用地質学会会議室において開催され，2009年度の活動報告と次年度の基本方針が話し合われました．この協議会は，最後にあげた地質系の学協会から構成されていて，専門技術者の継続的な教育と研修の機会の提供，研修課程の認定や保証に当たっています．また，本協議会としてまとまって建設系CPD協議会や日本工学会CPD協議会に加入し，地質系技術者の社会的な地位の確保に努めています．

本協議会の重要な役割のひとつがジオ・スクーリングネット＜http://www.geo-schooling.jp/＞の運営です．建設関係では最も古くから運用されている継続教育の仕組みです．現在3753人の登録があり，研修会の募集や研修履歴の管理に使われています．詳しい案内は別に載せておきますので，ご覧下さい．各種の研究集会の参加募集や運営にも利用できます（学会事務局へご相談下さい）．

会議では，建設系CPD協議会の動向が報告されました．この協議会に加盟することで社会的な認知度も高まっているが，我々の協議会は「Geo Net」という名称の下で動いているので，各種の研修実績を届ける際には「Geo Net日本地質学会○○研修」といった名称で研修実績を登録することが必要な場合がある（特に管理技術者資格）と指摘されました．一部の有力団体には囲い込みを図る動きもあるとのことですが，本協議会は開かれた運営を続けることと致しました．

また，日本工学会が中心となって工学系をたばねたCPD協議会についても報告があり，全体としては動きが低調で，かつ，「緩やかな連合」路線に落ち着いてきたように見えるとのことです．活動意義に疑問も出始めていますが，当面は言うべきことを言い，見守るという対応をすることとなりました．

（継続教育委員会委員長　**公文富士夫**）

**協議会参加団体**：日本応用地質学会，日本地質学会，（社）日本地すべり学会，（社）物理探査学会，日本情報地質学会，（独）産業技術総合研究所，NPO日本地質汚染審査機構 藤崎委員，日本地下水学会，（協）関西地盤環境研究センター（社）全国地質調査業協会連合会

## 地学教育のページ

# グランプリ地球にわくわく“第２回日本地学オリンピック大会”開催

“グランプリ地球にわくわく”（主催；NPO法人地学オリンピック日本委員会）が平成22年３月24日から26日まで筑波研究学園都市で開催されました．このイベントは第２回日本地学オリンピック大会で，第４回国際地学オリンピックインドネシア大会に派遣される日本代表選手の選考会も兼ね，一次選抜を通過した24人の中・高校生が参加しました．また本イベントは2012年国際地学オリンピック日本大会（つくば大会）のプレ大会と位置づけられ，多彩なイベントを盛り込んだ３日間となりました．

**第１日目**

共催４研究所研究者による“とっぷ・レクチャー”を開催しました．講演後の質問は研究者が舌を巻くほど鋭い質問の連続でした（写真１）．講演者とタイトルは以下の通りです．

・国立環境研究所　山野博哉氏　「地球温暖化とサンゴ礁」
・気象研究所　　三上正男氏　「ミクロの砂粒から地球が見える」
・JAXA　宇宙利用ミッション本部　大木真人氏「宇宙から地球を知る　～地球観測衛星とその仕事～」
・産総研　　齋藤文紀氏　「アジアの大河川とメガデルタ」

夜はオリンピック参加OB（４名）との懇談会を行い，国際大会の経験談や参加心構えを後輩たちに伝授していました．

**写真１．とっぷ・レクチャーで質問する参加者．**

**写真２．産総研での実技試験の様子．**

**第２日目**

生徒24名を３グループに分け，各グループが研究学園都市内で近接した３実技試験会場（産総研，JAXA，気象研究所）を巡回しながら，実技試験及び施設見学を行いました．各試験時間は40分間でした．

産総研では岩石・鉱物の鑑定試験（写真２），JAXAでは室内簡易プラネタリウムでの星座観察試験（写真３）や画像による星の進化などに関する試験，気象研では過去100年間の東京の気温上昇の近似線を関数電卓（マニュアルは前夜配布）を用いて求める試験や太平洋の海流に関する試験（写真４）を実施しました．

夜は外国人研究者（３名；セネガル，フィリピン，タイ国籍）との英会話による懇談会を行いました．３グループに分かれた生徒が外国人研究者を囲んで，研究内容や研究者母国のお国柄について話が弾み（写真５），時に笑い声が起こる和やかな雰囲気の懇談会でした．

**写真３．JAXAでの実技試験の様子．**

**写真４．気象研での実技試験の様子．**

**第３日目**

朝，実技試験の結果を基に成績優秀者８名が発表され，その８名は引き続き面接試験に臨みました．残りの生徒は，筑波大学ギャラリーやつくばエキスポセンターの見学した後，８名と合流して環境研の施設を訪れました（写真６）．午後１時半から産総研共用講堂で開催された表彰式で，最優秀賞（４名）・優秀賞（４名）が授与されました（写真７）．今大会より，茨城県知事賞（トップ賞），つくば市長賞（女子部門トップ賞），特別賞（地質調査総合センター長賞）を創設されました．解散後もしばらくメールアドレス交換等をして別れを惜しんでいる生徒の姿が印象的でした．

**写真５．外国人研究者を囲んで英会話特訓．**

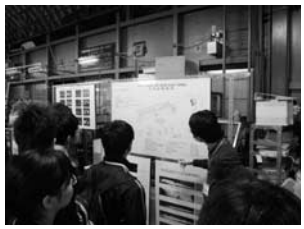


**写真６．環境研究所での施設見学．**

**写真７．表彰式の記念撮影　最優秀賞・優秀賞受賞者（後列）と来賓者（前列）．来賓者は前列左から濵野洋三氏（NPO法人地学オリンピック日本委員会理事長），上田誠也氏（国際地学オリンピック日本大会2012組織委員長），川田恭裕氏（JAXA筑波宇宙センター所長），日紫喜　豊氏（科学技術振興機構理数学習支援部調査役），加藤碩一氏（産総研地質調査総合センター代表），岡田久司氏（つくば市副市長），福地　仲氏（茨城県企画部理事兼科学技術振興監）．**

なお最優秀賞として次の４名が決定しました（学年は大会時）．大西　泰地さん（白陵高等学校１年），川島　崇志さん（静岡県立磐田南高等学校２年），武内　健大さん（聖光学院高等学校２年），野田和弘さん（広島学院高等学校２年）．彼らは今後研修を経て，９月19日から28日のインドネシアにおける国際大会に挑戦します．なお，優秀賞，茨城県知事賞，つくば市長賞，地質調査総合センター長賞受賞者や実技試験問題はHP（http://jeso.jp/）をご覧ください．

NPO法人地学オリンピック日本委員会
久田健一郎・瀧上　豊

## ☆近畿・四国・西日本支部 お知らせ

### 「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」（近畿・四国・西日本支部三支部合同例会）開催のお知らせ

下記の通り，第159回日本地質学会西日本支部例会（近畿支部，四国支部合同）を開催いたします．本大会では，ジオパークの活動に代表されるジオの視点を取り入れた地域活動に関する公開シンポジウムとジオツアーを計画しております．多数の方々のご参加をお待ちしております．

「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」実行委員会
委員長　大木公彦

**1．公開シンポジウム**
**「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」～環境を考える新しいキーワードGEO～ジオの視点を取り入れた地域振興とジオパークの活動**

日時　**2010年7月18日（日）**13：30～
場所　北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）ガイド館
主催　「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」実行委員会
共催　日本地質学会西日本支部・近畿支部・四国支部
後援　北九州市立自然史・歴史博物館ほか
予定：
1．特別講演「Geoの世界　-地質・地理そして地域-」（13：30～14：15）矢田俊文（北九州市立大学学長）
2．話題提供「世界ジオパーク日本第1号　島原半島ジオパーク」（14：30～15：15）杉本伸一（島原ジオパーク事務局局長）
3．討論（15：15～16：00）
4．館内見学（16：00～17：00）

**2．懇親会**
日時　2010年7月18日（日）18：30～
場所　『野の葡萄』
会費　2000円（食べ放題のみ）

**3．ジオツアー**（学会員：事前予約必要，応募者多数の場合は抽選）
**「ジオ・サイト　曽根干潟，間島」**
主な見学予定地点：日本一のカブトガニ生息地・消えかけた砂嘴・島の古墳群・小倉城石垣（花崗岩）の石切り場・恒見の石灰岩大露頭
実施日：2010年7月19日（月・祝）海の日
集合：7月18日（日）スカイホテル苅田に宿泊のこと　＊各自予約をお願いします．
予定：
01：22（満潮）
カブトガニ産卵調査（希望者）（＊カブトガニの状況により，中止する場合があります）
09：00　貫川河口発　曽根干潟徒歩横断
10：00～14：55（満潮）　間島巡検＋昼食
15：00　漁船出向かえ
15：30　苅田北漁港・着替え　マイクロバス移動
16：00　朽網（くさみ）駅着　解散
コーディネーター：高橋俊吾（北九州市立小学校教務主任，カブトガニを守る会）
案内者：野井英明（北九州市立大学文学部教授）・平野國臣（中間市立小学校教頭，北九州市立自然史友の会）・矢野正孝（北九州工業高等専門学校准教授，ジオ　カン　プロジェクト）・太田泰弘（北九州市立自然史・歴史博物館学芸員）
＊雨天時：平尾台ジオツアー（国指定天然記念物千仏鍾乳洞・平尾台観察センター・平尾台自然の郷）

参加費
(1) 公開シンポジウム
一般の方：無料（ただし展示の見学には入館料が必要です）
日本地質学会会員：資料代1000円（入館料こみ）
(2) ジオツアー
参加費：4000円（弁当代込，宿泊費別）
**＊事前予約受付：5月31日（月）（必着）**

申込・問い合わせ
住所，氏名，年齢，連絡先を記入の上
E-mail : geoinfo1000@gmail.comあるいは　往復はがき
〒805-0071　北九州市八幡東区東田二丁目4-1
北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）内
「ジオ・シンポジア2010 in 北九州」巡検担当　太田宛
＊応募多数は抽選し，当選者を6月15日（火）までに確定し連絡いたします．

## ☆関東支部 報告

### ジオパークをめざして！ ―秩父地域の観察会と講演会，大盛況に終える―

本間岳史・楡井　尊（埼玉県立自然の博物館）
小幡喜一（埼玉県立熊谷高等学校）

2月13日と3月6日の両日に，秩父地域の1市4町，埼玉県立自然の博物館，日本地質学会関東支部が主催の秩父ジオパーク推進イベントが開催された．秩父地域では，2月2日に秩父市・小鹿野町・長瀞町・皆野町・横瀬町の1市4町，県秩父地域振興センター，県立自然の博物館，観光協会，関連NPO，商工会等で構成される「秩父まるごとジオパーク推進協議会」が設立されるなど，ジオパーク認定に向けた組織作りが徐々に進んできている．今回の一連のイベントは，地元住民等への啓発を主眼とした企画で，秩父地域で“ジオパーク”と銘打って実施した初めてのイベントとなったが，いずれも大盛況であった．初めてのイベントとしては確かな手ごたえがあり，大成功と言えるだろう．今後，このうねりをどのように持続・発展させていくかが課題である．以下，2日間のイベントの概要を報告する．

2月13日（土）の午前中には，ジオサイト観察会「長瀞の岩畳」が行われた．秩父鉄道の長瀞駅→岩畳→小滝の瀬→虎岩→埼玉県立自然の博物館の順で“地質学の宝庫”長瀞のハイライトコースを歩き，結晶片岩類・変形小構造・荒川沿いの河川地形などを観察した（写真1）．スタッフは，案内を担当した筆者ら，秩父市，事務局を担当した「NPO秩父まるごと博物館」，

## 支部コーナー

**写真左から，長瀞岩畳の見学（２月13日午前）．ジオパーク講演会（２月13日午後）．前原の不整合の見学（３月６日バスツアー）**

地質学会関東支部幹事等である．当日は小雪がちらつくほどの寒さだったにもかかわらず75人もの参加者があったのは驚きであった．

同日の午後には，博物館の講堂で「ジオパーク講演会」を開催（写真２）．久喜邦康秩父市長の挨拶の後，“「日本地質学発祥の地」秩父とジオパーク”と題して，本間がジオパークの定義，国内の動向，秩父のテーマなどについて講演し，次に“「秩父の地形・地質」を代表するジオサイト”と題して，小幡が秩父の地形・地質やおもな露頭などについて，スライド写真をまじえて講演．参加者からは，「ジオパークのことが初めてわかった」「秩父にはこんな所があったの」といった声が聞かれた．80人の参加者にスタッフが加わり，講堂が満杯となる盛況ぶりであった．

３月６日（土）には，「秩父ジオサイトバスツアー」が行われた．あいにくの小雨模様で遠望がきかない天候のなか，69人もの参加者があった．主催者側としては，秩父市，博物館，地質学会関東支部（幹事３名のほか高木副会長も参加），NPO秩父まるごと博物館，NPO野外調査研究所などから20人が集まり，総勢90人近い大部隊がマイクロバス3台と自家用車数台に分乗してジオサイトを巡った．参加者はバスごとに３班に分かれ，小幡・楡井・本間の３人がそれぞれの班で地形・地質の解説を担当した．

午前９時に西武秩父駅に集合し，日程説明後，①浦山ダム付近（秩父帯の岩石）→②橋立鍾乳洞（鍾乳洞と岩陰遺跡）→③前原の不整合→④取方の大露頭（新第三系）→⑤ようばけ（同）→⑥秩父ミューズパーク（段丘地形等の眺望）の順に見学．①の浦山ダム付近では，秩父累体南帯の付加体の赤色チャートや赤色泥岩を見た後，ダム堤体内部のエレベーターでダム上端に上がった．あいにくの悪天候で遠望はきかなかったが，天候が良ければ秩父盆地から上武山地，さらには赤城山まで望むことができる．ダムサイトの「うららぴあ」という展示施設で荒川の自然と歴史の展示を見学後，②の橋立鍾乳洞へ移動．埼玉県唯一の観光洞で県指定天然記念物である．武甲山石灰岩体の一部である高さ約40mの石灰岩大岩壁の下に開口する．鍾乳洞見学後，岩壁下の橋立岩陰遺跡（縄文草創期～古墳時代）について，NPO会員である考古学専門家などが，実際の発掘体験をまじえて弁舌をふるった．ここで昼食．午後は，バスで荒川沿いの段丘地形を見学しながら北上し，③の県指定天然記念物「前原の不整合」を見学（写真３）．皆野町が説明看板を立て，露頭に降りる斜面に階段を設置するなど，比較的整備されている．ここで観察される不整合は，秩父累帯北帯の秩父層群万場・上吉田ユニットに属する粘板岩の上位に，秩父盆地の新第三系彦久保層群牛首峠層の礫岩～砂岩が重なるもので，秩父地域の中でも最もよく知られた地質見学地のひとつである．ここでは基底礫岩の様子も間近に観察することができる．また，ここからは古くから知られた化石産地である荒川と赤平川の合流点も望める．④取方の大露頭は赤平川が大きく曲流する地点で，新第三系の小鹿野町層群吉田層～桜井層の砂岩泥岩互層と，その上位を覆う段丘堆積層との傾斜不整合を観察．砂岩泥岩互層中にはスランプ構造が見られ，赤平川の曲流により地層の見かけの傾斜が変化するなど，地層の学習に適している．

⑤の地点の「ようばけ」は，赤平川の攻撃面に形成された高さ100m，幅400mの大露頭である．また古くから知られた化石の産地で特にカニの化石で有名．現在は県自然環境保全地域および小鹿野町指定天然記念物となっていて化石採集はできない．傾斜した中新統の秩父町層群奈倉層～鷺ノ巣層が見事で教科書等によく掲載されており，「日本の地質百選（第二次）」の一つに選定された．付近の町立「おがの化石館」には多くの化石が展示されているが，外国産の標本も多いので，今後，秩父地域の化石を中心とした展示への改修が求められるだろう．最後の見学地点⑥秩父ミューズパークは，荒川の高位段丘である尾田蒔丘陵（通称“長尾根”）上に位置する．河川で堆積した尾田蒔礫層を観察しながら，秩父市街を見下ろせる斜面にある展望台へ移動した．このころからようやく雲がとれ始め，対岸の秩父市街の先にそびえる秩父のシンボル，武甲山などの山々を望むことができた．

今回のバスツアーの参加者は約半数が地元秩父郡市在住者で，残り半分が秩父地域以外からの参加者であった．質問も多く出て，参加者の関心の高さが伺われた．地元自治体の関係者も参加し，今後のジオパークへの第一歩として大いに盛り上がるバスツアーとなった．

---

**訂　正**

News誌３月号p.4-6掲載の「第四紀下限変更に伴う諸問題検討に関する報告」記事中に誤りがありましたので，ここに訂正し，お詫び申し上げます．

（日本地質学会拡大地層名委員会）

**p.5　右段上から15行目**

（誤）5．鮮新世の区分は上・下部鮮新世，後・前期鮮新統の二区分とし，IUGSが定義するザンクリアン期・ザンクリアン階，ピアセンジアン期・ピアセンジアン階に対応させる．

（正）5．鮮新世の区分は上・下部鮮新統，後・前期鮮新世の二区分とし，IUGSが定義するザンクリアン期・ザンクリアン階，ピアセンジアン期・ピアセンジアン階に対応させる．

**p.5　右段下から13行目**

（誤）（注２）後・中更新世および上・中更新統の名称については，それぞれをタランティアン期・タランティアン階，イオニアン期・イオニアン階がIUGS-ICSで検討されている．

（正）（注２）後・中期更新世および上・中部更新統の名称については，それぞれをタランティアン期・タランティアン階，イオニアン期・イオニアン階がIUGS-ICSで検討されている．

## IODP教育プログラム「ちきゅう」乗船スクール2010参加報告

東京大学大学院理学系研究科
地球惑星科学専攻修士課程
松山健志

2010年１月６日から９日の４日間地球深部探査船「ちきゅう」に乗船し，コア試料などを用いて「ちきゅう」船上で乗船研究者・ラボテクニシャンの活動を体験しました．そして私はこの乗船スクールに参加してほんとう～によかった！楽しかった！と感じています．そのすばらしい４日間をレポートしたいと思います．

**１日目（１月６日）**

**【感動した，船の大きさと設備に感動した，食事のおいしさに感動した，そして海の働く男達に感動した】**

乗船スクール参加者６名は静岡県の清水駅に集合し，「ちきゅう」が停泊している清水港へと向かいました．スクール開始前に他の参加者の所属や研究分野などについては既にメールの自己紹介を通して知っていたとはいえ，気を張ってしまい，それまでは船上の研究を体験できる！と楽しみにしていたのですが，４日間のスクールを有意義に体験できるだろうか・・・と実はこのとき不安になっていました．港に着き，「ちきゅう」を一目見たときの感想は「でかっ！」でしたね．私はそれまで研究船はもちろん，船というものに乗ったことがなく，初めて乗った船が「ちきゅう」だったのですが，遠くから見ると港にある工場のようで，近くによって見てもやっぱり大きな工場が海の上に浮かんでいるようにしか見えないとてつもない大きさに驚かされました．

乗船後はすぐに安全講習を受け，船での生活の注意点などを教わりました．そして船内ツアー！船内には，生活を快適にしたり，疲れた体を十分に休めたりするためにレクリエーションルームやジム，サウナなど様々な設備が整っていました．他にも，えっ！？こんなものまであるの！？という部屋もありましたので，ぜひ「ちきゅう」に乗船して実際に見て欲しいと思います．私はこのツアーの時に，小さい頃に読んだ絵本の，おもしろい部屋がいっぱい詰まった海賊船を思い出し，この夢が詰まった船「ちきゅう」で４日間過ごせることにわくわくしていました．ツアー後，自分の部屋に荷物を置きに行きましたが，部屋は個室でしかも全く揺れず，空調完備，トイレ・シャワー付きで，４日間とても快適に過ごすことができました．他の船に乗ったことのある方々が色々な場面で「ちきゅう」は豪華客船だ，と言っていましたが納得です．

そして，昼食です！バイキング形式になっており，ご飯もあればパンもあり，おかずも和洋中と種類が豊富でデザートまでたくさんある，しかもあるもの全部本当においしいので，どんどん取ってどんどん食べてしまいました・・・．と書くと，反省しているようですが，このおいしい食事を毎回たらふく食べて実習に臨んでいました．毎回おいしい食事を用意していただいたコックの方々，本当においしかったです，ありがとうございました．

昼食後は，安全保護具を身につけて船内・甲板の見学となりました．機関室やドリリングのオペレーションルームなど一般公開では入らせていただけないような所も見学でき，しかもその場で実際に働いている方から直接説明を聞かせていただきました．午前・午後の船内ツアーの時には，疑問があればなんでも質問していたのですが，その場の担当の方にすべて丁寧に答えていただき，しかも多くの所で最後には，なにか聞きたいことがあったらまたいつでも聞きに来てくれ！と笑顔でおっしゃっていただきました．それぞれの仕事に情熱と誇りをもって，クルー全員で船を動かしている，ということがまざまざと感じられ，かっこいい！と感動していました．この気持ちは，この１日目だけではなく４日間で何度も感じることになります．

夕食後にはプロポーザルに関するレクチャーとスクール参加者の研究紹介を行いました．まだ修士過程なのだからプロポーザルを提出するのなんてまだまだ先，などと私は全く思っていないため，プロポーザルを提出する側ではなく，受け取って審査する側の視点でとても有益な話を聞くことができ，このレクチャーは最終日の実習のまとめ発表時に大いに役立ちました．スクール参加者の研究紹介では，湖沼堆積物・堆積盆形成・有孔虫・マントル捕獲岩・泥火山・プレートテクトニクスなど出てくる専門用語が多岐に渡りすぎてわからないぐらい（ただの私の勉強不足ですが）本当に様々な人が集まっていたので，議論したり発表を聞いたりすると大変よい刺激になりました．

この日の夜は，これっぽっちも知識がない私に次の日から始まる実習が本当にやっていけるのかという不安半分，新しいことに挑戦できるというううれしさ半分で就寝することとなりました．

**２日目（１月７日）**

**【負けた，サンプルを持参せずに負けた，物性測定の原理が理解できず負けた，そしてVCDで負けた】**

２日目は，実習がスタートしました．まずはX線CTスキャナやコアの記載（VCD：Visual Core Description），物性測定の簡単なレクチャーを受けました．この基礎の部分を理解しなければ何もわからなくなるだろうと集中して聞いていましたが，知識に乏しい私にとってこの日のうちに実際の実習内容とつなげることはとても難しかったです．そしてレクチャーの後には参加者一人ひとりにコアセクション（約1.4m）が与えられたのですが，陸上でさえ地質の記載などをやったことがない私は，これが私の調べるコアか～，と自分のサンプル（コア）というものを持てることがとてもうれしかったかったです．はじめにX線CTスキャナを用いてコアを調べ，これによってコアを傷つけることなくその３次元構造を見ることができました．この実習はとてもおもしろく，どのような角度からでもコアの

中を見ることができ，このコアの中に見えるチューブ状の影は生物擾乱（巣穴など）かな？ということもわかってしまいます．またスクール参加者で岩石のサンプルを持ってきた人はX線CTスキャナでそのサンプルを調べてもらうことができました．私は自分の岩石サンプルというものを持っていないためできなかったのですが，他の方はサンプルの内部構造を見て活発に議論をしていました．このスクールで反省すべき点の一つはこのサンプルを持参しなかったことでしょうか．大学の他の学生からでも面白そうなサンプルを借りてくれれば良かったと後悔しています．次に，コアの物性測定をマルチセンサコアロガー（MSCL）を用いて行い，ガンマ線透過数・帯磁率・自然ガンマ線強度を測定しました．私は「コアを機器のレールの上に置いて待っているだけで流れ作業のように測定していくのでとても簡単だな」という感想が出る程度でした．これは，私が原理とデータの意味をまだ理解しておらず，この時点ではこれらのデータの有用性をわかっていなかったことが原因です．しかし，３日目以降にそれぞれのデータの意味を勉強することで物性測定のデータを見ることが徐々におもしろくなっていったのです．

午後からは，コアの記載（VCD）を行いました．これが私にとって一番どうしてよいかわからないことでした．自分の判断でコアの見た目からそのデータを記載していくのですが，どのようなことを調べればよいのか，調べるためにはどのような方法を用いればよいのか，調べた結果から地中でそのコアはどのよう状態だったのか，すべて全くわからない状態だったので，右往左往しているうちにこの日のVCDは終わってしまいました．

また，コアに穴を穿ち３～４cc程度のサンプルを実際にとらせていただき（貴重なコアを私のようなやつが使っていいのか・・・とも思っていましたが），MAD（Moisture and Density）Measurementを行いました．何も手を加えていない湿潤なサンプルの重量を測定し，その後一晩水分を飛ばして乾燥させたサンプルの重量と体積を測定し，密度を計算しました．これらの測定の準備等はすべてラボテクニシャンの方にやっていただきました．私たちがやった事はサンプルを運んでボタンを押したり結果を記入したりという程度です．しかし，それだけで結果が出るように様々な準備・整備をしていただいたことがわかり，研究者が研究に集中できるように，という当たり前のことが当たり前になされていました．後で行われたラボツアーでは，私には見当もつかないとてつもない数の機器が備えられていましたが，ラボテクニシャンの方々は全ての整備を行い，使いこなしているということで，ここでも情熱や誇りを感じました．

夕食後，サイエンスカフェでは「ちきゅう」に乗って研究する場合にどのようにすれば他の同乗研究者よりも一歩リードできるのか，そのためのX線CTスキャナデータの利用方法を教えていただきました．また，他の講師の方々からは研究紹介をしていただき，普段私が聞けないような話題についてだったので質問したり議論したりと大変勉強になりました．

そしてその後は就寝となるのですが，私はこの日実習が全く身に付かなかったことを猛省し，配布されたレクチャーノートをもう一度読み上げ，疑問点を洗い出し，３日目の最後の実習に備えました．

**３日目（１月８日）**

**【楽しい！実習が楽しい！他の方々との議論が楽しい！自分だけのプロポーザルを考えるのが楽しい！】**

実習の仕上げとまとめに入った３日目．朝一番で，昨晩のMADの測定の続きを行いました．これもラボテクニシャンの方が朝早くから測定の準備をしていただいたおかげです．

さらに，コアの記載（VCD）のまとめも行いました．この時に昨日までに挙げておいた疑問点を講師の方々やスタッフの方々に質問しまくっていたため，多くのことが理解できるようになり，また，少しづつVCDの何を調べればよいのかと，そのための方法とがわかり始め，どんどん積極的に取り組めるようになりました．それに加えてコアを計測したデータの意味，X線CTスキャナの有用な使い方などがわかると，VCDによるコアの外見とどんどん繋がっていき，時間を忘れてコアの記載を行っていました．普段は数式やグローバルな観測のデータを扱うことが多い私なのでそれまでは岩石の記載や測定をしたことが一度もなかったのですが，これは面白い！と機会があれば将来やっていきたい研究の一つとなりました．結果として２日目のように時間を無駄にすることはほとんどありませんでしたが，最後の方は時間が無くなってしまい２日目からどんどん調べて，他のデータとも比較できていたらもっともっと楽しくなっていたに違いない！とこれも今回のスクールの反省点ですね．

またこの日にはラボ内の今まで見られなかった場所も見学することが出来ました．膨大な数の機器はもちろん，多くの部屋全体も実にきれいで，これもラボテクニシャンの方々のおかげだろうと感心していました．それにしても薄片室がどうしてあんなにきれいに保てるのでしょうか，不思議です．さらに，「ちきゅう」内に保管している貴重なコアも見せていただくことができ，これが堆積物と地殻の境界か～実際はこんな色なのか，と教科書を読んでいるだけではわからないような実際の物も見ることが出来ました．

そしていよいよ実習データをまとめると共に，自分が考えた研究計画案，プロポーザルを考え，明日発表するための準備に取りかかります（それまでにも下準備をする時間は色々と与えられていましたので，ここから準備に取りかかるのは私の怠慢が原因ですが）．この発表がこのインターンシップの総まとめであったため，その準備は骨の折れるものでしたが，他の参加者や講師の方とも夜遅くまで議論をし私にとっては実習の理解

を深める手助けになりとても充実した時間でした．そして，初めて自分で一から考えたアイデアを評価していただく場に立つということで気合いを入れて何か良いプロポーザルの案がないものか，と夜も更けていく中で頭を悩ませ続けたのでした．

**4日目（1月9日）**
**【緊張！発表！そしてスクール修了！】**

朝食後に，荷物をまとめてチェックアウト．そしていよいよ実習成果報告会です．思いつきのようなものでも良いと事前に言われており，報告会は皆が建設的に議論や助言，提案をする場でした，その上発表は10分程度の短い発表ですが・・・ほんとうに待ち時間が緊張しましたね！実習生6人中，私は4番目の発表だったのですが，その前の3人の発表を聞いていると他の方の研究案が大変面白く，私のプロポーザルは大丈夫だろうか・・・と絶えず不安でした．そしてついに自分の発表．もともとプレートの応力や運動の研究をしているので，それに関するプロポーザルで他の方とは全く毛色の異なる計画案でしたが，私が思っていたよりも随分と好意的に受け止めていただきました．安堵もかなり大きかったのですが，自分が一から考えたことが評価されるのは大変うれしいものでした．報告会が終わった後には，皆で昼食を食べながら様々な話をしました．4日間という短い間でしたが，スクール参加者の方だけでなく，スクールスタッフの方々，講師の方々とも和気あいあいと食事をしていることに改めて気付き，初日に感じた不安は杞憂だったなぁと食事を楽しみました．

これで，様々なことを学び・議論し・体験し，多くの方と知り合い・繋がりができ・その交流を深めた，とてつもなく楽しく充実した4日間のスクールはお終いです．同乗者の先輩方（私が一番下っ端の若造でした）ともとても親しくなったため，下船後，清水観光もするほどで（老舗の御茶屋さん「佐津川園」に寄ったりしました）このスクールで体験だけでなく多くのものをいただいたと強く感じています．

最後に，今回の「ちきゅう」乗船スクールは本当に多くの方にお世話になりました．「ちきゅう」を一丸となって動かしとても輝いているクルーの方々，私が迷惑をかけなかった方はいないと言い切れるこのスクール担当のスタッフの方々，掘削や堆積学の予備知識がない私の基本的な質問にも丁寧に答え議論をしていただいた講師の方々，一番の若造でほとんど知識も経験もない私にもフランクに接していただいた他の参加者の方々，皆様のおかげでこのようにすばらしいスクールを体験することが出来ました．本当にありがとうございました．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の3名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

**b.honda@ruri.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）**
**k1799462@kadai.jp　中谷大輔（鹿児島大）**
**miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp　宮川歩夢（京都大）**

## 2010年度の会費払込について

2010年4月～2011年3月の会費額は下記の通りです．未納の方には督促請求書を送付いたしますが，早急にご送金をお願いいたします．督促請求は5月末頃の予定です．

基本的な請求額は下記（①）の金額です．アイランドアークを印刷物で購読されている方は②の金額を加算します．2010年度からの会費請求についての詳細は，2009年ニュース誌10月号（52ページ）をご参照下さい．

| 会員資格 | ①2010年4月～2011年3月分会費 | ②アイランドアーク購読料（購読者のみ請求） |
|---|---|---|
| 正会員 | 12,000円 | 8,000円 |
| 〃　（院生割引）※1 | 8,000円 | 6,000円 |
| 〃　（学部学生割引）※2 | 5,000円 | 6,000円 |

※注1：定収のない大学院生（研究生）の方で所定の申請をされた方のみに適用します．
※注2：2010年度からは学部学生も「正会員」となり，所定の書式で申請された方のみ割引会費を適用します．
**過去に遡っての申請は受け付けておりません．なお，2010年度分までの割引会費の申請受付も終了しておりますので，ご了承下さい．**

### 1．次回自動引き落としについて（2010年およびそれ以前の会費が未入金の方対象）

次回は6月23日（水）に引き落としの予定です．まだ会費を未入金の方で今後自動引き落としを希望される方は，「自動払込利用申込書」（巻末掲載）をご利用の上，5月12日（水）までにお申し込み下さい．

### 2．自動引き落としの新規申込を受け付けています．登録口座変更の場合もあらためて申込書をお送りください．

学会としては，自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．申込は随時受け付けています．

（日本地質学会会計委員会）

## 新事務局員ご紹介

事務局では，4月より阿南晶子（あなん　あきこ）さんを新メンバーに迎え，計4名で業務にあたっています．阿南さんの主な担当は，Island Arc編集事務をはじめ庶務全般です．皆様どうぞよろしくお願い致します．

温泉王国？大分県出身です．大学時代の専攻は建築でしたので，これまで地質とはあまりご縁はありませんでしたが，これからどうぞよろしくお願い致します（阿南）．

# CALENDAR

2010.4〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

## 2010年

### 4月　April

**☆関東支部地質技術伝承講演会／支部総会**
4月18日（日）13：30〜16：00
場所：北とぴあ（北区王子）
http://kanto.geosociety.jp

**☆北海道支部：「地質の日」・「国際博物館の日」記念展示：「わが街の文化遺産　札幌軟石」**
期間：4月27日（火）〜5月30日（日）10：00〜16：00
会場：北海道大学総合博物館1階「地の統合」コーナー
http://www.geosociety.jp

### 5月　May

**☆地質の日特別イベント**
**講演会「地球史46億年を撮る」**
講演：白尾元理氏（写真家）
5月8日（土）13：30〜15：30
会場：東京大学小柴ホール
http://www.geosociety.jp

**☆近畿支部：「地質の日」協賛行事：第27回地球科学講演会**
「大阪の温泉は本当に温泉か？－大阪平野の地下水を可視化する－」
日時：5月9日（日）14：30〜16：30
場所：大阪市立自然史博物館講堂
http://www.geosociety.jp/

**☆西日本支部：後援「地質の日」企画身近に知る「くまもとの大地」**
日時：5月9日（日）10：00〜16：00
場所：熊本市通町筋上通り入り口　びぷれす広場
http://www.geosociety.jp

**○火山灰編年・火山活動・人間活動に関する国際野外集会およびワークショップ「アクティブテフラ九州2010」**
5月9日（日）〜17日（月）
会場：鹿児島県霧島市霧島市役所
http://www.ris.ac.jp/intav-jp/index.html

**○日本地球惑星科学連合2010年大会**
5月23日（日）〜28日（金）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

**☆日本地質学会第117年総会**
5月23日（日）18：00より
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.geosociety.jp

**○日本地下水学会2010年春季講演会**
5月29日（土）
会場：慶應義塾大学矢上キャンパス
http://homepage2.nifty.com/jagh_gyouji/

**○火山都市国際会議2010テネリフェ大会**
5月31日（月）〜6月4日（金）
会場：テネリフェ島の北部プエルト・デ・ラクルス市
http://www.citiesonvolcanoes6.com

### 6月　June

**★関東支部第2回地質技術伝承講演会：「共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱」**
6月6日（日）14：00〜16：30
講師：中村裕昭氏（株式会社地域環境研究所）
場所：北とぴあ飛鳥ホール（東京都北王子）
http://kanto.geosociety.jp/

**○地質学史懇話会**
6月20日（土）13：30〜17：00
場所：文京シビックセンター4階シルバーセンター内会議室A（場所が変更になっています）
加藤碩一「宮沢賢治論の地的背景」
菊池真一「水路図の歴史」

**○GEOINFORUM-2010：第21回日本情報地質学会総会・講演会**
6月22日（火）〜23日（水）
会場：産総研臨海副都心センター　バイオ・IT融合研究棟11階会議室

### 7月　July

**○第47回アイソトープ・放射線研究発表会**
7月7日（水）〜9日（金）
会場：日本科学未来館
http://www.jrias.or.jp/index.cfm/1,html

### 8月　August

**○第12回国際熱年代学会議（Thermo 2010）**
8月16日（月）〜20日（金）
会場：スコットランド・グラスゴー大学
http://www.ges.gla.ac.uk/Thermo2010

**☆韓日地質学会室戸合同大会**
8月23日（月）〜25日（水）
会場：国立室戸青少年自然の家
主催：日本地質学会
http://struct.geosociety.jp/koreajapangs2010/

### 9月　September

**○日本温泉科学会第63回大会**
9月13日（月）〜16日（木）
会場：野沢温泉アリーナ国際会議場
問い合わせ：info@nozawa.jp

**☆日本地質学会第117年学術大会**
9月18日（土）〜20日（月・祝）
会場：富山大学ほか
http://www.geosociety.jp

**○日本鉱物科学会2010年年会・総会**
9月23日（木・祝）〜25日（土）
会場：島根大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams3/

### 韓日地質学会 室戸合同大会のお知らせ

今年の夏（8月23日〜25日）構造地質部会が主体となり（主催は日本地質学会）韓国地質学会のご協力も得て，標記の大会を開催いたします．

日程：**2010年8月23日〜25日**
会場：国立室戸青少年自然の家
大会ホームページ＜http://struct.geosociety.jp/koreajapangs2010/＞

今後，詳細が決まり次第，上記のホームページを随時更新いたします．なお，ポスターはご自由にダウンロードして頂き，ご興味のありそうな方に配布して頂けますと幸いです．
ぜひ，多くの皆様に参加して頂ければと存じます．宜しくお願い申し上げます．

構造地質部会
庶務　松田達生

日本地質学会会員への割引販売のご案内

# 『地学は何ができるか—宇宙と地球のミラクル物語—』

**日本地質学会 監修　地学読本刊行小委員会 編集**
**A5判，総 376 頁（本文 368 頁，カラー口絵 8 頁）**
**ISBN 978-4-87256-414-3　2009 年 12 月 25 日刊行**
**本体価格：2,800 円（税別）　割引価格：2,400 円（税・送料込み）**

次代を担う若者たちの多くが，「このままでは地球は壊れる」という誤った悲観論に囚われて未来への夢を失っている．現状を打破するには，宇宙・地球・生き物・人間・社会そして未来，を総合的に考える「地学教育」の振興が不可欠である．

大学や高校で地学教育に携わる人々と現代文明の行く末を危惧する人々を念頭において編まれた本書は，明るい未来を切り拓くための強力な知的武器となろう．

上記出版物の会員割引販売をいたしますので，下記の申込書にて（株）愛智出版　営業部宛お申し込みください．

（地学読本刊行小委員会）

---

割引販売取扱：（株）愛智出版　営業部

お申し込みは，このページをコピーして，FAX または郵便で下記へ直接お送りください．e-mail にても受け付けます．

**［お申し込み・お問合せ先］**

（株）愛智出版　営業部　〒191-0065　東京都日野市旭が丘 1-14-13
Tel：042-585-1014　Fax：042-583-0968
e-mail：aichishuppan@pop06.odn.ne.jp

**［お支払い方法］** 書籍（納品書・請求書・振替用紙同封）到着後，御送金ください．
郵便振込み，銀行振込み，いずれも可能です．

**［その他］**

・送料は愛智出版が負担いたします．振り込み手数料は申し込み者がご負担ください．
・申込者の個人情報は今回の注文に関してのみ使用し，その他の目的で使用いたしません．
・この申込書は，書店，生協では利用できませんのでご注意ください．

## 会員割引販売申込書

| | |
|---|---|
| 書名：『地学は何ができるか』　会員割引価格 2,400 円（税・送料込） | 部 |
| 注文者氏名： | |
| 送付先住所：〒　　－<br>（電話　　） | |
| 通 信 欄：公費等の場合は，必要書類と請求書の宛名を御記入ください． | |

## 『地学は何ができるか』の編集を終えて

地学読本刊行小委員会
委員長　**原田憲一**

地学教育の振興と普及が久しく叫ばれていますが，入試センターテストの翌日の新聞から「地学」の問題と解答が消えてから既に20年が経過しています．地学の社会的認知度は低いままです．にもかかわらず，私たちの日常生活の場には，地球環境問題を始めとした地学的な話題と情報が満ち溢れています．例えば，テレビでは天気予報が常時，そして地震速報は随時流されています．突発的に生じる地震や津波，台風や高潮，集中豪雨や斜面崩壊，火山噴火や土石流といった地質災害の場合，特別番組が組まれて専門家による解説が行われます．また，進化や生態系をテーマにしたドキュメンタリー・シリーズや連続ドラマは好評を博しています．一方新聞では，天文や古生物などに関する新発見がカラー写真で報じられています．また，石油やレアメタルに関する国際的な資源争奪の現状が，地学的背景も含めて詳しく解説されています．

しかし，宇宙の中の地球という観点から，岩石圏，水圏，大気圏，生命圏そして人間圏に関する幅広い知見を，体系立てて分かりやすく教えることは，地学分野の教育，研究，実務に従事する者にとっても，決してたやすいものではないはずです．大学時代に地学の一分野を縦割りで学んできたからです．実際，浜島書店が高校地学用に編集した『地学図表』を手にして，高校生や社会人に地学現象を分かりやすく説明できる地学関係者は何人いるでしょうか．

本書は，地学教育に携わる教員と学生が上記『図表』の内容全般を概観するための副読本・教科書を目指しました．個人の手に負える仕事ではありませんが，企画者が構成した目次を執筆協力者に割り振っただけでは，読者の目からうろこを落とすような本にはなりません．執筆者間で人間観や自然観を交換した上で目的を共有し，目標を定めなくてはなりません．そうした場を確保するために，学会の承認を得て地学読本刊行小委員会を立上げ，2006年４月に第１回編集会議を合宿形式で開きました．異分野から集まった執筆者が問題意識と抱負を語り合い目次を組み立てました．同年９月開催の第２回会議では，全員で初稿を読み合わせて問題点を洗い出し，各章の修正方針を固めました．2007年１月に集まった第二稿は，原田が通読して用語と文体の統一を図り，執筆者に問題点を修正してもらいました．同時に挿絵担当の中島篤子（当時東北芸術工科大学学生）さんにも図表の修正をお願いしました．愛智出版の丸川満社長には2009年２月に完成した最終原稿から問題点を洗い出していただき，何度も原田と会議を重ねた上で，昨年末の刊行に漕ぎ着けました．

幸い「中高理科教員の必読書」，「教養教育に絶好の教科書」，「大人の教養書」といった好意的な声が寄せられています．手間暇かけて完成した本書が一人でも多くの読者に迎えられることを願っています．

目　次

序文-若き読者たちへ
はじめに
第１章　宇宙から見た生命の星
第２章　生命の星の形と動き
第３章　進化する生命の星
第４章　生命を育む共生の星
第５章　循環する水の惑星
第６章　豊かな資源と採掘に揺れる星
第７章　地球の賢い学び方
おわりに
参考文献
索引

会員割引販売（定価2,800円→2,400円）のご案内は，本誌P.20（前頁）をご参照下さい．

## 学会オリジナルフィールドノート 新しくなりました！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　カバー：ハードカバー，ビニールコーティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

# 学　会　記　事

任意団体日本地質学会の議事録を掲載しています．

## （任）日本地質学会2009年度 第９回理事会議事録

2010年２月26日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2010年２月13日（土）13：00-15：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　齋藤　坂口　久田　向山　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，岩森　倉本　小嶋　藤林　矢島
＊成立員数（12/17）に対し，出席者11名，委任状６名，欠席者０名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

**報　告**

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
報告事項
・学術振興会賞受賞者決定，理工系に地球科学系の受賞者はなかった．
・消防庁より，消防防災科学技術研究推進制度により研究課題の公募案内→news，メルマガに掲載
・事務体制：１月から紹介派遣の形式で派遣社員（阿南晶子さん）が勤務を開始．３ヶ月経過の時点で正式雇用するかどうかを決定（３カ月派遣延長も可能）．

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者３名
正会員（1）哈斯巴特尔（ハスバートル），Ahn Jae Wook（アン　ゼ　ウク）
正々（院割）（1）相山光太郎
準会員（2）岡崎遼太郎　竹原真美
２）逝去者　２名（正２）根本　守（2009/12/2逝去）本庄　充（2010/1/4逝去日とする）
３）10月末日会員数
賛助30，名誉73，正4220（うち院218），準33，合計4356（前年同期比－104）
４）法人との兼用会員名簿を刊行し，１月号の雑誌とともに会員に配布した．
５）会員カード（磁気，バーコード）の採用を検討中，採用するとすれば今年度中に着手．
　会員の証明およびイベント参加記録などに利用．
６）会員の年齢構成を考慮した会員数と会費収入の動向
会員数は，来年度には4000名を切る見込みが大きい（ただ，減員の割合は縮小傾向）．これによって会費収入は年間100万円程度で減額見込み，会員の減少を防ぐとともに，最低限の事務局維持に必要な固定的経費を確保し，公益的事業費などは外部予算獲得を目指す必要性がある．

会計関係（担当理事-向山）
・年会登録システム構築にあたりクレジット決済導入を検討し，代行手数料等を比較して，㈱イプシロンにクレジット（VISA・MASTER・DINERS）の代行申請を行った．現在イプシロン社内の第一次審査は通過し，クレジット会社の二次審査中で，早ければ今月中に結論がでる予定．
・支部事業計画及び収支予算案の提出がはじまり，北海道支部，関東支部，西日本支部から提出されている．
・IYPEのファイナルイベントに対する特別協賛金12万円，イベント参加依頼の早稲田高等学院の生徒および引率者に交通費と弁当代の支給をする．
・IYPEは2009年で終了なので，2010年度から出版物などのロゴをはずす．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・フォトコンテスト最終審査を１月19日におこない入賞者を決めた．News誌２月号およびメルマガにて公表，IYPEファイナルイベントにて表彰する．

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・富山大会について
富山大学から後援の承諾を受けた．
現在，シンポジウム，トピックセッション等の申し込み受け付け中．（３月半ばまで）

専門部会連絡委員会（担当理事-藤本）
国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
日韓交流：８月23日～25日開催予定の構造地質部会主催の日韓合同大会（於：室戸ジオパーク）について，韓国側からの申し出で韓国地質学会として参加を対応するとの申し出があり，部会単位ではなく，学会どうしの交流として位置づける予定．そこで，韓国地質学会Lee Yong Il新会長の招待について，富山大会も考慮しつつ要検討（高木）．
　上記について審議の結果，当該事業を富山大会のプレ事業として位置付けるとともに学会相互交流と位置付ける．また，韓国地質学会の会長は富山大会に招待する．

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・116-2月号：総説１　論説２　短報１　報告１（約60ページ・校正中）
・116-3月号：論説３　短報２　口絵１（約60ページ・入稿準備中）
・今月の編集状況は以下のとおりです（２月12日現在）．
2010年度投稿論文　総数７編［論説６（和文６）・報告１（和文１）］
口絵４（和文３　英文１）
査読中　52編　受理済み　16編（うち通常号３　特集号13）
口絵の引用文献数について改定案（現行１つ以内→改定案３つ以内）を編集委員会内で検討．編集規則（I-1-e　項）の改定として，理事会に諮り承認をうける．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・編集状況報告（2/1現在）
・W&B社との協議：インパクトのある特集号をSynergyで課金なしのフリーアクセス対象とする．新たなカテゴリーとしてInvited paperを作る（年に1-2編見込み）
・Invited paperのページチャージや英文校閲費用については学会負担（およそ20万円くらい）とすることを検討し，承認した．
・２月５日，事務引き継ぎのため産総研内事務局を訪問．２月末の完全引き継ぎまでメール等で指導を受けながら作業中．今年度をもって（実質は２月末）事務局を本部内に移転する．

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・「城ケ島たんけんマップ」（蟹江康光代表）の企画提案書が出版企画委員会に出された．リーフレット企画出版委員会において検討の結果，本企画の提案を採用することとし，理事会に報告することとした．すでに原稿の概要案ができているので，できれば２月中に完成案の提出を要請し，今年度の事業となることを期待している．
・理事会として，上記企画のリーフレット企画出版委員会の採用を承認した．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
・IYPEファイナルイベントのプログラムが決まった．地質学会は特別協賛し，以下の行事を行うこととした．
日時：３月27日（土）15－16時
タイトル：「早大高等学院の高校生，四川大地震の記録映像製作者と一緒に語る『大地の変動』」
内容：早稲田大学高等学院地学クラブの高校生が日頃の研究成果を発表し，日本地質学会司会のもと，四川大地震の記録映画の製

作者と一緒に，大地の変動について討論します．詳細は次の予定です．

1．早大高等学院地学クラブの研究紹介（20～25分程度）　発表２件

2．早大高等学院地学クラブの高校生さんたちと四川大地震記録映画制作者との「大地の変動」に関する討論（30分），その中で，記録映画のダイジェスト版（15分）を投影．

司会：倉本真一（日本地質学会）

地学教育委員会（委員長-中井均）

・JSEC2009の事務局に対し，会長名で再審査委員についての要望書を出した．

地層名委員会（委員長-天野）

・１月22日，第四紀問題に関し，学術会議主催，第四紀および本学会との共催でシンポジウム開催した．→審議事項

5．各委員会等

支部長連絡会議（担当理事-高木）

・関東支部の2010年度秋のシンポジウムは第四紀学会との共催で行うこととなった．

“関東盆地の地下地質構造と形成史”

・西日本支部長　宮本隆実会員（広島大）に交代

JABEE委員会（委員長-天野）

・２月22日臨時総会開催，橋辺が代理出席することとした．

ジオパーク支援委員会（委員長-天野）

ニュース誌にジオパークコーナーを設けること，ジオルジュで毎回１件ずつジオパークの特集を組むことについて，坂口理事とともに前向きに検討（坂口・高木）．

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）

各賞選考にあたって利益相反規定に基づいて行うよう各賞検討委員会に加えて各賞選考委員会にも周知する．

6．地質の日委員会（藤林委員）

7．IYPE日本（佃副会長）

・ファイナルイベントのプログラムが決まった．

8．日本ジオパーク委員会（高木委員）

・委員会メンバーとして，新たにJGNの正会員地域のジオパーク運営者，さらに，地域振興の専門家も加える方向で検討中．

9．NPO地学オリンピック日本委員会（久田）

３月24－26日に筑波で二次選抜　24名の中高生参加．

国際地学オリンピック日本大会の組織づくり，委員長は上田誠也氏を予定，募金委員長は関連企業の方に交渉中．

２月23日（火）に準備委員会を開催，本会からは高木副会長が会長の代理出席をする．

10．日本学術会議（佃副会長）

１月22日，第四紀問題でシンポジウム開催，参加者は150名ほどでたいへん盛況であった．

その後，記者会見を行った．

**審議事項**

1．第四紀・第三紀問題について

・地層名委員会として，１月22日付で公表された「第四紀と更新世の新しい定義と関連する地質時代・年代層序の用語について」について専門部会長も含めた拡大地層名委員会に意見を求めた．慎重な意見も若干出されたが根本的な異論は出されなかったので，４月の評議員会に向けて地層名委員会としての報告を行う予定

・国際的な動向を把握し，学会としての対応を行うために，IGCなどの関連委員会の日本人の委員を調べ，動向を調査する．なお，理事会としては以下の方針を承認

・１月22日公表の文書の内容を本学会の指針とし，今後雑誌やHPなど学会の公式文書は，それに従うこととする．学術大会の講演や講演要旨などについては第三紀の使用を妨げない．

・地層名委員会と理事会の連名で，指針と推奨する年代表をHPやNews誌などに速やかに掲載．

以上

## （任）日本地質学会2009年度第10回理事会議事録

2010年３月26日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2010年３月13日（土）13：00-15：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　倉本　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：（委任あり）高木副会長，岩森　小嶋　齋藤　坂口
＊成立員数（12/17）に対し，出席者12名，委任状５名，欠席者０名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

**報　告**

1．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

報告事項

・平成21年度東レ科学技術賞および科学技術研究助成，理科教育賞の決定，贈呈式招待→欠席．また，同賞の平成22年度の募集案内→News誌，HP，メルマガに掲載

・学術振興会より，平成23年度採用分特別研究員の募集案内→News誌，HP，メルマガに掲載

・科学教育研究協議会より，第57回全国研究大会の後援依頼があり，例年通り承諾した．

・原子力学会原子力総合シンポジウム2010運営委員会より，原子力総合シンポジウム2010の共催依頼（主催日本学術会議５月予定）があり，例年通り承諾した．

共催金　１口5000円　運営委員として昨年に引き続き高橋正樹会員を推薦した．

・学術著作権協会より，著作物のHP掲載についてのアンケート→総務委員会で対応

会員関係（担当理事-向山）

1）入会者７名

正会員（4）阿部　健，岡嶋眞一，井口隆，川辺文久

正〔院割〕会員（3）齊藤　誠，宮城直樹，佐藤峰南

2）３月末退会予定者，除籍予定者を回覧

3）逝去者１名（名）古川和代（逝去日：2010/3/4）

4）２月末日会員数

賛30　名誉73　正会員4221（うち院218）
準33　合計4357（昨年比－99）

会計関係（担当理事-向山）

・年会登録システムのクレジット決済は，㈱イプシロンおよびクレジット各社（（VISA・MASTER・DINERS）の代行申請審査は，クレジット会社の二次審査もクリアした．年会の利用は６月からだが，手続きは今月末に行い４月から利用可能状態となる．

・会計委員会の開催（３月11日）

予想される2009年度決算案，法人2010年度の予算案について検討．

富山大会収支予算案，支部事業計画及び収支予算案について検討した．支部については，北海道支部，東北支部，関東支部，中部支部，西日本支部から提出があった．

男女共同参画委員会からの事業・予算計画について，年会時の保育についての補助は，特に問題はないが，キッズプログラムについては理事会において検討課題とする．

→理事会で検討の結果，大人も含めたファミリー企画として男女共同参画委員会に再検討を依頼することとした．

・任意団体の口座は任意団体解散以降も入金用として一定期間存続させる．管理は一般社団法人で行う．

・法人理事会について，院生理事の旅費支給を会計委員会で検討する．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・フォトコンテスト審査委員長の白尾元理さんへの謝金は，IYPEとの共催なのでIYPEのほかの講師謝金に倣い，２万円とする．
・IYPE記念イベントにおけるフォトコンテストの表彰・写真の展示を行う．
ニュース誌編集小委員会

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長　斎藤）
・富山大会について
見学旅行案内書の冊子版について，実行委員会から概算見積書とともに冊子作成の希望が寄せられた．検討の結果，冊子作成を承認した．
・鉱物科学会より，2011年水戸大会での共催実現に向けて，実行委員会への参加申し入れがあった．

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・編集状況
116-3月号：論説４　短報１　口絵１（51ページ・校正中，3/19校了予定）
116-4月号：論説３　短報３（約64ページ・入稿中）
今月の編集状況配下の通りです（３月12日現在）．
2010年度投稿論文　総数11編［総説１（和文１），論説７（和文６・英文１），報告１（和文１），短報２（和文２）］口絵５（和文３　英文２）
査読中　54編　受理済み　16編（うち通常号３　特集号13）
・第四紀の下限および「第三紀」の用語不使用等に関しては，合意文書（１月22日，学術会議分科会および第四紀学会・地質学会）に基づく地質学会の方針にそって，116巻３号掲載論文より適用することとした．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・編集状況報告（2/1現在）
・２月末にて事務局引き継ぎ完了．

企画出版委員会（担当理事-藤林）
１）リーフレット
・「城ヶ島たんけんマップ-海から生まれた城ヶ島-」（蟹江ほか）
3/8原稿受領（担当委員：高清水康博）
査読中（～3/29）
２）監修依頼
学校図書館向けシリーズ図書
「（仮）地球がつくったびっくり地形44」（Ａ４；小５～中２対象）
造事務所企画作成，PHP研究所出版
→佃副会長および坂口理事を担当者として監修依頼を引き受ける．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
地層名委員会（委員長-天野）
・第四紀問題に関し，News３月号，HP，メルマガ等に広報記事を掲載．

５．各委員会等
支部長連絡会議（担当理事-高木）
・東北支部長交代　竹谷陽二郎会員（福島県立博物館）幹事　長橋良隆会員（東北支部事務局　福島大）

６．地質の日委員会（藤林委員）
・本部企画
日程　５月８日（土）または９日（日）（会場の都合により）
内容　講演会（講師　白尾元理さん，タイトル未定）
フォトコンテストの写真や白尾さんのNews誌シリーズも展示
過去の地学オリンピック出場者（２名程度）に経験を語ってもらう．
会場　公共施設，大学施設等で会場の選定を行う．
入場料　無料　講師謝金３万円

７．IYPE日本（佃副会長）
１）IYPE終了記念イベント：地質学会協賛企画
（3/27（土）15：00-16：00　富士ソフトアキバプラザ６Ｆセミナー室２）
・3/8に会場下見と打ち合わせを行った．会場は120席．加藤（早稲田大学高等学院），黄（株・順発貿易公司：映画製作），児島（損保ジャパンリスクマネージメント），藤林，細川
・3/27　12：00　試写（藤林・倉本）セミナー室１
14：00　早大高等学院と顔合わせ，６Ｆロビーのセミナー室２の前に集合（加藤，地学クラブ８名，倉本，藤林，斎藤）
14：45　会場準備（同上）セミナー室２
15：00-16：00　イベント（＊黄さんは15：30までに会場入り）
終了時　アンケート回収
・地質学会独自の広報
(1) 3/16 geo-flashで配信
(2) ML（地学教育委員会，関東支部，地学オリンピックなど）

８．日本ジオパーク委員会（高木委員）
５月の連合大会初日（日曜日）のジオパークセッションの昼過ぎから，今年の申請地域のプレゼンをJGC委員の前で実施，終了後，JGCで審査会議を実施．
今年世界に申請するのは，室戸，阿蘇の予定．

９．NPO地学オリンピック日本委員会（久田）
３月４日に国際地学オリンピック日本大会準備委員会（高木副会長出席）
組織委員長　上田誠也氏，募金委員長　尾池和夫氏　組織委員長　久田理事などを決定
３月24－26日に筑波で二次選考を兼ねたイベント

**審議事項**
１．総会開催日（５月23日）および議案について
会場：幕張メッセ国際会議場　304室
日本地質学会第117年総会　18時～18時40分
2009年度事業経過報告
2009年度決算報告と資産処分について
任意団体の解散について

２．法人への移行について
・事務局員の雇用主を４月から一般社団法人へ変更し，それに必要な諸手続きを行う．
Islan d Arc編集事務局の移行などに伴い，事務局員の新規採用を行う．
・預貯金口座については法人への名義変更ができないので，新たに口座開設を行う．

３．４月３日の評議員会について
総会の議案など議題を検討した．

以上

## 一般社団法人 日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

## （一社）日本地質学会2009年度 第９回執行理事会議事録

期　日：2010年２月13日（土）15：00-17：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　齋藤　坂口　久田　向山　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，岩森　倉本　小嶋　藤林　矢島
＊成立員数（9/17）に対し，出席者11名で，執行理事会は成立．
＊前回議事録の承認

**報告事項**
１．各賞の審査に開始にあたり，各賞選考検討委員会委員長として榎並正樹委員長を選出した．
２．選挙管理委員会より１月16日に開票した代議員選挙の結果報告が以下のとおりあっ

た．News誌，メルマガ，HPに掲載した．代議員による理事選挙および会員からの監事の立候補受け付けは２月12に締め切られ，現在委員会で立候補届を確認中．

全国区代議員　立候補者88名　全員無投票当選

地方区代議員　立候補者86名　順位づけのため投票をするが全員当選とし，各支部の１位当選者を支部代表の理事とする．

**審議事項**

１．総会日程の検討

連合会期中の５月23日（日）か，それ以外の日，たとえば５月22日（土）の可能性について検討．

代議員へのアンケートの結果としては，基本的に総会会期中を望む声が高いことから，第一候補を５月23日（日）としつつ，それが困難な場合は22日（土）を第二候補とすることとした．２月下旬の合同大会のスケジュール決定を待って正式に決める．

２．４月３日，任意団体評議員会・理事会議題の検討

任意団体評議員会：2009事業報告・決算報告案，解散と財産処分

法人理事会：

2009事業報告　2010年度事業計画　2010年度予算案

選管から選挙結果の報告

各賞の決定，名誉会員候補者の決定

第四紀　第三紀問題

地質災害

総会議題

３．総会およびその関連について

１）任意団体および法人の総会は以下のように予定する．

・2010任意団体総会　　2009年度事業報告および決算，任意団体の解散と財産移譲

・2010法人総会

＜2009年度までの代議員と役員による＞

2009事業報告と決算

選挙結果：代議員および役員（理事・監事）の選出の決議

＜2010年度からの新代議員と役員による＞

役員（会長，副会長，執行理事）の選出の決議

2010事業計画と予算

名誉会員の決議

＊上記，新代議員および役員による審議の前に，2010第１回理事会を開催し，理事の互選による会長（代表理事），副会長，執行理事の選出を行う必要がある．

４．地質災害対応について

・関東支部から以下の２件についての提案があり検討した．

①緊急調査時の通信手段としての業務無線用の固定周波数の獲得について

衛星携帯電話や特定小電力無線など，他の手段との比較検討を進める．

②緊急調査時などに個人の車を学会が借り上げする制度について

会計委員会で，会社の制度などを参考にしつつ，学会としての案を検討

・上記については，今後，関東支部の検討内容も取り入れながら，地質災害委員会で検討を進める．

以上

2010年２月26日

一般社団法人日本地質学会

会長（代表理事）　宮下純夫

署名人　理事

## （一社）日本地質学会2009年度第10回執行理事会議事録

期　日：2010年３月13日（土）15：00-17：00

場　所：地質学会事務所

出席者：宮下会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　石渡　上砂　倉本　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）

欠席者：高木副会長，岩森　小嶋　齋藤　坂口

＊成立員数（9/17）に対し，出席者12名で，執行理事会は成立．

＊前回議事録の承認

**報告事項**

１．選挙管理委員会より理事及び監事選挙の結果報告があった．

理事立候補者42名　全員無投票当選（ほかに地方支部選出理事７名で合計49名）

監事立候補者１名　無投票当選

**審議事項**

１．総会開催日（５月23日）および議案,議事運営について

会場：幕張メッセ国際会議場　304室

2010年度理事の事前打ち合わせ　17時30分～17時50分

一般社団法人日本地質学会第２回総会　18時45分～19時45分

2009年度代議員による審議

理事会報告

2009年度事業・決算報告

代議員および理事・監事選挙報告

2010年度理事による第１回理事会

代表理事，副会長，監事，執行理事の選任

2010年度代議員による審議

代表理事，副会長，執行理事，監事，理事会議長の選出

2010年度事業計画

2010年度予算案

名誉会員の選出

２．理事会選出の監事候補者１名の選定について

山本正司監事に引き続きお願いする．任期は４年

３．2010年度収支予算案について

全体の事業規模は今年度並みを維持する．

事務局は，今年度はとりあえず４名体制とし,残業を減らすなどで人件費圧縮に努める．

支部事業については，基本的に申請内容を承認．

2009年度の会計で基本資産を3000万円に増額．

退職金引当金，事業費引当金など，総額3700万円程度の引当金を整理．

構造地質部会の特別引当金（旧構造研究会の預かり金）は今後５年程度の消却計画によりなくす方向．

３．４月３日理事会について

議題について検討した．

４．地質情報整備・活用機構のジオマスター制度への協力依頼について

・「新資格ジオマスター」の後援

・資格検定委員会の委員の推薦（10名程度）

資格制度の意義は認めるものの，人材育成の観点などが十分に練られておらず，事業計画も具体的でないため，提案自体の再検討を依頼した．また，資格認定制度に対する地質学会の立場についても，事業主体となるよりは認証評価という立場に立つべきではないかという意見も出された．

５．その他

１）災害時の調査・連絡手段について

地質災害委員会の下に緊急時の調査・連絡手段を検討する技術的検討WGを設置して，そこに各支部や技術的手段の専門家を呼んで検討する．

２）関東支部と東京地学協会との連携強化

関東支部で開催予定のシンポジウムの共催などを申し入れることを了承した．

３）事務局体制について

派遣の人材を正規雇用とすることを決め，具体的な手続きは運営財政部会に一任する．

４）国際交流

富山大会のアジアセッションでモンゴル地質学会の幹部を学会として招聘を検討．

英語HPの充実および協定を結んでいる学会相互の紹介，相互リンクを進める．

2010年３月26日

一般社団法人日本地質学会

会長（代表理事）　宮下純夫

署名人　理事

# 入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください．

入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，申し込み時には，初年度の会費を添えてお申し込みください．

申込書送付先：101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140-8-28067　日本地質学会
会費額：正会員 12,000円　（学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】）
＊学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教官の署名，捺印をもらってください．

## 日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

**太枠内のみにご記入ください（＊Official use only ）**

＊会員番号　　＊会員種別　□正会員（□学部学生割引 ・ □院生割引）

氏名（ふりがな） Name in Japanese　　ローマ字表記 family name　　first name

＿＿＿年Year＿＿＿月Mo＿＿＿日Day 生born on　　Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：

学歴 Academic career：
＿＿＿＿＿学校 High school＿＿＿＿＿年卒業 Year completed
＿＿＿＿＿大学 University ＿＿＿＿＿学部 Faculty ＿＿＿＿＿年＿＿月 卒業（見込み）Year completed
修士 Master：＿＿＿＿＿大学Univ.＿＿＿＿＿研究科Fac. ＿＿＿年＿＿月 修了（見込み）Year completed
博士 Doctor：＿＿＿＿＿大学Univ.＿＿＿＿＿研究科Fac. ＿＿＿年＿＿月 修了（見込み）Year completed

自宅住所 Home address：（郵便番号 Zip code　　－　　）

電話 Phone：　　ファックス Fax：
電子メール E-mail：

所属機関・住所 Affiliation with address：（郵便番号 Zip code　　－　　）

電話 Phone：　　ファックス Fax：
電子メール E-mail：

連絡先 Correspondence：　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目：2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください（チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします）．**

□ 最終学歴　□ 所属先学科名・部課名（掲載不可の場合は「○○大学○○学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載）
□ 所属先住所　□所属先電話・FAX番号　□自宅住所　□自宅電話・FAX番号　□e-mail Address

紹介者名（正・院生会員）　　印
Recommended by (name of member) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Signature

**学部学生割引・院生割引申請欄：運営規則に基づき会費の院生割引を申請いたします．**

上記本学の学生につき，　□ **学部学生** ・ □ **定収のない院生（研究生）**〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします．

**指導教官　所属：　　氏名：　　印**

**専門部会：**現在，下記の13の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．（該当する項目に○印を付けて下さい）

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質
7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質　10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質

**興味専門分野：**あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．（該当する項目に○印を付けて下さい）

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質（金属・非金属）　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古　30. その他　40. 地球惑星

＊受付（　　年　　月　　日）　＊入金（　　年　　月　　日）振替・現金・銀行・他
＊承認（　　年　　月　　日）　＊送本（　　巻　　号）

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

# 預金口座振替依頼書
# 自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

| 収納代行会社 | SMBCファイナンスサービス株式会社 | 振替日 | 6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日） |
|---|---|---|---|

| （フリガナ）<br>申込人名 | | 申込人住所 | 〒<br>☎ |
|---|---|---|---|

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

**ゆうちょ銀行以外の銀行**

| 金融機関コード | | 支店コード | | 預金種目（どちらかに○印） | 口座番号（右詰めでご記入ください。） |
|---|---|---|---|---|---|
| 銀行 信用金庫 組合 | | 本店 支店 出張所 | | 1. 普通<br>2. 当座 | |
| （フリガナ）<br>口座名義人 | 法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。 | | | 金融機関お届け印 | 印 |

**ゆうちょ銀行**

| （フリガナ）<br>口座名義人 | 法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。 | ゆうちょ銀行お届け印 | 印 |
|---|---|---|---|

| 種目コード | 契約種別コード | 通帳記号 | 通帳番号（右詰めでご記入ください。） |
|---|---|---|---|
| 166 | 30 | 1　　0 の | |

| 払込先口座番号 | 00110－5－58830 | 払込先加入者名 | SMBCファイナンスサービス株式会社 |
|---|---|---|---|

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

| 収納企業名 | 日本地質学会 | 料金等の種類 | 会費等 |
|---|---|---|---|
| 契約者番号 | 委託者コード 18476000 | 顧客コード 00000 | |

**―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。**

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

**金融機関使用欄**

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

| 検印 | 印鑑照合 | 受付印 | |
|---|---|---|---|
| | | | |

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

# ますます発展する“ジオ・スクーリングネット”！
# ～土質・地質技術者の生涯学習総合サイト～

ジオ・スクーリングネット（土質・地質技術者の生涯学習ネット）は，2001 年 10 月から運用中です

特徴　① 土質・地質に係る技術者のための関連情報をインターネットで提供しています

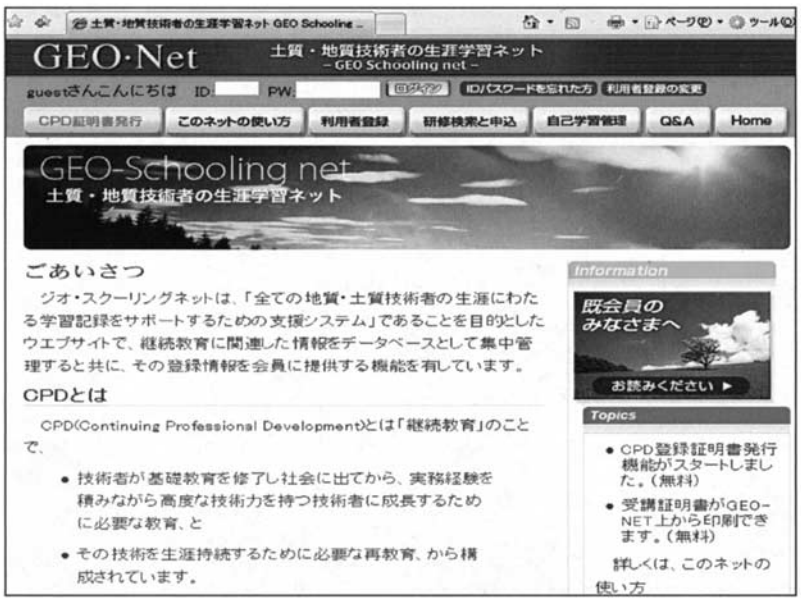
② オープン・フリー制で“どなたでも無料でご利用いただけます”

機能　① 講習会情報の検索と参加申込みができます

② 技術者継続教育（CPDH）の自己学習の記録が管理できます

ジオ・スクーリングネット の URL は，http://www.geo-schooling.jp/

今すぐのアクセスをお待ちしております　ジオスクーリングネット　検索



受講証明書

| 受講番号 | 氏　名 | 開始年月日 | 終了年月日 |
|---|---|---|---|
| | 地質 太郎 | 2003-06-06 | 2003-06-06 |

| プログラム名／タイトル | CPD単位 |
|---|---|
| 平成15年度現場研修会(見学会) | 6.00 |

ご貴殿が，標記プログラムを受講されたことを証明します。

2008年10月28日

主催団体：日本応用地質学会

土質・地質技術者生涯学習協議会
事務局　(社)全国地質調査業協会連合会

CPD記録証明書

地質 太郎 殿

CPD登録番号：GS-22199
所　属：(社)全国地質調査業協会連合会
生年月日：1947年10月03日

貴殿が，土質・地質技術者生涯学習協議会において，以下のようにCPDが記録されていることをここに証明します。

| | |
|---|---|
| 取得期間 | 2007年10月20日～2008年10月28日 |
| 取得CPD単位 | 0.00 CPD単位 |
| 教育分野別CPD単位 | A. 基礎共通分野 |
| | B. 専門技術分野(理論) |
| | C. 専門技術分野(調査手法) |
| | D. 周辺技術分野 |
| 教育形態別CPD単位 | i. 講習会・研修会への参加 |
| | ii. 講文等の発表 |
| | iii. 企業内研修及びOJT |
| | iv. 技術指導 |
| | v. 優秀業務経験 |
| | vi. その他 |

2008年10月28日
土質・地質技術者生涯学習協議会
事務局　(社)全国地質調査業協会連合会

各種証明書の発行も無料ですよ (^_^)v
- CPD 記録簿
- 受講証明書
- CPD 記録証明書

ジオ・スクーリングネットの加盟団体は，現在も拡大中です!!

加盟団体：日本応用地質学会，日本地質学会，日本地下水学会，（社）日本地すべり学会，（社）物理探査学会，日本情報地質学会，NPO 日本地質汚染審査機構，（独）産業技術総合研究所，（協）関西地盤環境研究センター，（社）全国地質調査業協会連合会，全地連 10 地区協会

※問い合わせ先　ジオ・スクーリングネット事務局　info@geo-schooling.jp

5月10日は 地質の日

日本地質学会 主催 「地質の日」特別イベント

写真家 白尾元理 講演会

# 地球史46億年を撮る

2010年 5月8日(土)

時間：13:30~15:30
（開場13:30　講演会14:00~15:00）

場所：東京大学小柴ホール
（東京都文京区本郷）

定員：170名

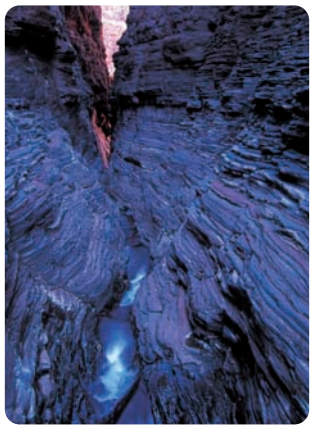
入場無料
申込不要

多少の困難を乗り越えても現地に立ち，五感を研ぎ澄まして地球の鼓動や悠久の営みを肌で感じること．これが白尾元理さんの写真の原点だそうです．今回は，地球の46億年を，白尾さんご本人に写真で案内していただきます．撮影秘話なども．

**ジオ写真展も同時開催：**白尾さんの写真と惑星地球フォトコンテスト入選作品の展示も行います．

講師：白尾（しらお） 元理（もとまろ） 氏
（写真家・日本地質学会会員）
1953年東京浅草生まれ．東京大学理学系大学院修士課程終了．専門は火山地質学・惑星地質学．現在は写真家・サイエンスライター．著書は『日本列島の20億年』・『世界のおもしろ地形』ほか多数．

会場（小柴ホール）へのアクセス：
・地下鉄千代田線根津駅より徒歩8分
・地下鉄南北線東大前駅より徒歩1分
・JR御茶ノ水駅より学バス利用（学07東大構内行）
・JR上野駅より学バス利用（学01東大構内行）



写真提供・白尾元理

問い合わせ：
一般社団法人 日本地質学会
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
TEL: 03-5823-1150　FAX: 03-5823-1156
E-mail: main@geosociety.jp　http://www.geosociety.jp

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp